# 令和８年度 新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ） 機械設備特記仕様書

仕様書

## Ⅰ 工事概要

1. 工事場所　東京都新宿区内藤町11新宿御苑内

2. 建物概要

| 建物名称 | 構造 | 階数 | 建築基準法による延べ面積(㎡) | 消防法施行令別表第一の区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 御殿 | 木造 | １Ｆ | 約456.718 ㎡ | | 新築 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

3. 工事種目（●印の付いたものを適用する）

| 工事種目 ＼ 建物別及び屋外 | 工事種別 御殿 | | | 屋外 |
|---|---|---|---|---|
| ● 空気調和設備 | 新築一式 | | | |
| ● 換気設備 | 新築一式 | | | |
| ○ 排煙設備 | | | | |
| ○ 自動制御設備 | | | | |
| ● 衛生器具設備 | 新築一式 | | | |
| ● 給水設備 | 新築一式 | | | 改修一式 |
| ● 排水設備 | 新築一式 | | | 改修一式 |
| ○ 給湯設備 | | | | |
| ● 消火設備 | 新築一式 | | | 改修一式 |
| ○ 厨房設備 | | | | |
| ○ ガス設備 | | | | |
| ○ | | | | |
| ● 撤去工事 | | | | 撤去一式 |
| | | | | |

4. 指定部分　● 無　○ 有　指定部分工期：令和　年　月　日
対象部分（　　）

5. 設備概要（●印の付いたものを適用する）

| 方式及び種別 | 設備概要 |
|---|---|
| 空調方式<br>主要熱源機器 | ● 個別空調方式<br>● マルチパッケージ形空気調和機 |
| 自動制御方式 | ● 電気式　○ 電子式　○ デジタル式 |
| 給水方式 | ○ 高置タンク方式　● 水道直結方式 |
| 排水方式 | 建物内の汚水と雑排水（　○ 合流式　● 分流式）<br>ポンプ排水　○ 有り（　○ 汚物　○ 雑排水　○ 湧水）　● 無<br>排水槽　○ 有（計画容量　　㎥）● 無<br>建物外放流先<br>（１）汚　水　● 直放流下水管　（２）雑排水　● 直放流下水管 |
| 消火設備の種類 | ○ 屋内消火栓設備　○ スプリンクラー設備　○ 泡消火設備　● 単口地下式消火栓75φ<br>○ 連結散水設備　○ 連結送水管　○ 不活性ガス消火設備（　● ABC消火器　） |
| ガスの種類 | ● ＬＰガス（　種別 LPG、高位発熱量　100MJ/m3(N)、低位発熱量　MJ/m3(N)<br>供給圧力　Pa、一般ガス導管事業者名　） |

## Ⅱ 工事仕様

1. 共通仕様

（１）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記標準仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。
- ● 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）(令和7年版)（以下「標準仕様書」という。）
- ● 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）(令和7年版)（以下「改修標準仕様書」という。）
- ● 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）(令和7年版)（以下「標準図」という。）

（２）電気設備工事及び建築工事と本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（119／164）図、建築工事の特記仕様書は（1～7／164）図による。

2. 特記仕様
項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。

## Ⅲ 現場及び技術に係わる事項

1. 情報共通システム
○ 本工事は情報共有システム利用対象工事である。
詳細は「自然公園等整備工事及び業務の情報共有システム運用要領（案）」による。
○ 本工事は。情報共有システム対象外工事である。

| 章 | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| ● 一般共通事項 | ○ 適用区分 | 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。<br>○ 風圧力<br>風速（Vo=　m/s）<br>地表面粗度区分（　）<br>○ 積雪荷重<br>建設省告示第1455号における区域　別表（　） |
| | ● 環境への配慮 | (1) 本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月閣議決定）」に定める特定調達品目の分野「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。<br>(2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。<br>①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボードその他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材はアセドアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。<br>②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。<br>③接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。<br>④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。<br>(3) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。<br>①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料<br>②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料<br>③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料<br>④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 |

| | | |
|---|---|---|
| ● 機材の品質等 | (4) グリーン購入法に基づく、環境物品等の調達に関する基本方針((以下「基本方針」という)(環境省ホームページに掲載)(毎年2月改定))において位置づけられた、「特定調達品目」に該当する材料及び建設機械等は、原則として基本方針に定める判断基準を満足するものを使用することとする。<br>なお、やむをえず判断基準に満たないものを使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。また、「特定調達品目」の調達の実績（設備及び公共工事）について、当該年度の調達実績集計表（物品・役務及び公共工事）を環境省ホームページからダウンロードし、Excelファイルで作成し、提出する。 |
| ● 機材の品質等 | (１) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。<br>(２) 別表－１に機材等名が記載された製造業者等は次の①から⑥すべて事項を満たす証明となる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料の提出を省略することができる。<br>①品質及び性能に関する試験データを整備していること。<br>②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。<br>③安定的な供給が可能であること。<br>④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。<br>⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。<br>⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 |
| ○ 施工調査 | 事前調査　○ 本工事　○ 別途<br>調査内容<br>調査項目　○ 既存資料調査<br>調査範囲　○ 図示　○<br>調査方法　○ 図示　○ |
| ○ 足場その他 | ○ はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。ただし、走査式埋設物調査で埋設物の調査ができない場合は、監督員との協議による。<br>○ 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。<br>○ 本工事で設置する。<br>○ 内部足場（　○　種　○　種）○ 外部足場（ ○　種　○　種）<br>「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 |
| ● 埋め戻し土・盛土 | ○ 根切り土の中の良質土<br>ただし、以下の配管は、管の周囲に山砂の類を施す。<br>○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VD）<br>○<br>○ 山砂の類 |
| ● 建設発生土の処理方法 | ● 構内敷きならしとする。　○ |
| ● 機材の承諾図 | 機械設備工事機材承諾図様式集（令和7年版）によるほか、監督員の指示による。 |
| ● 総合試運転調整 | ● 本工事　○ 別途<br>調整項目（測定箇所等は監督職員の指示による。）<br>● 風量調整　○ 水量調整　● 室内外空気の温湿度の測定<br>○ 室内気流及びじんあいの測定　● 騒音の測定<br>○ 飲料水の水質の測定：費用（○ 本工事　○ 別途）<br>○ 雑用水の水質の測定：費用（○ 本工事　○ 別途）<br>○ |
| ● 電動機 | 換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないもの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としよい。 |
| ● 電源周波数 | 50Hz |
| ● 容量等の表示 | (１) 機器類の能力、容量等は機器表に表示された数値以上とする。<br>(２) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として機器表に表示された数値以下とする。 |
| ● 耐震施工 | 耐震措置の固定は、施設の分類に応じて次による。<br>(１) 設計用水平地震力<br>機器の重量[kN]（水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量）に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平深度を乗じたのもとする。 |

設計用標準水平震度

| 機器種別 | | ○ 特定の施設 重要機器 | ○ 特定の施設 一般機器 | ● 一般の施設 重要機器 | ● 一般の施設 一般機器 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上層階屋上及び塔屋 | 機器 | 2.0 | 1.5 | 1.5 | 1.0 |
| | 防振支持の機器 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.5 |
| | 水槽類 | 2.0 | 1.5 | 1.5 | 1.0 |
| 中間階 | 機器 | 1.5 | 1.0 | 1.0 | 0.6 |
| | 防振支持の機器 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.0 |
| | 水槽類 | 1.5 | 1.0 | 1.0 | 0.6 |
| 地階・1階 | 機器 | 1.0 | 0.6 | 0.6 | 0.4 |
| | 防振支持の機器 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 0.6 |
| | 水槽類 | 1.5 | 1.0 | 1.0 | 0.6 |

・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの
・水槽類にはオイルタンクを含む。
・重要機器は次による。
（名称：　.記号：　）（名称：　.記号：　）
（名称：　.記号：　）（名称：　.記号：　）
（名称：　.記号：　）（名称：　.記号：　）
（名称：　.記号：　）（名称：　.記号：　）
（名称：　.記号：　）（名称：　.記号：　）

(２) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とする。

| | |
|---|---|
| ● 地中埋設標等 | (１) 地中埋設標　● 要（図示による）　○ 不要<br>(２) 埋設表示テープ　● 要（排水管を除く）　○ 不要 |
| ● 配管 | (１) ステンレス鋼管の接合は、下記による。<br>● 呼び径60Su以下（　○ SAS 322を満足した継手　○　）<br>(２) 溶接部の非破壊検査　○ 不要　○ 要（　） |
| ○ 絶縁継手 | 図示の位置に取り付ける。 |
| ● 試験 | 既設配管を含む部分の試験　○ 要（方法及び圧力　）<br>● 不要 |
| ● 保温 | 標準仕様書第２編によるほか次による。ただし、各工事種目で別に指定されたものは除く。<br>○ 多湿箇所は下記による。<br>室名：<br>● 共同溝内の保温種別は下記による。<br>ダクト：　配管：標準仕様書第2編の「施工箇所屋外露出」 |

| | | |
|---|---|---|
| ● 衛生器具設備 | ○ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器 | ○ 個別感知フラッシュ方式（○ AC電源　○ 自己発電） |
| | ● 自動水栓の電源種別 | ● ＡＣ電源　○ 自己発電　○ |
| | ○ 衛生器具ユニット | ○ 別図による |
| ● 給水設備 | ● 配管材料 | (１) 一般配管　●ステンレス鋼管(SUS304)<br>○<br>(２) 地中埋設配管　●水道用ポリエチレン配管(PE)<br>●ダクタイル鋳鉄管<br>(３) 水道直結配管　○ 引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中埋設配管は（　○　）とし、他の部分は（１）による。 |
| | ● 量水器 | ○ 親メーター（ ○ 現地表示（直読式）　○ 遠隔表示式（ ○ 電文式　○ パルス式 ）（ ○ 貸与品　○　））<br>● 子メーター（ ● 現地表示式（直読式）　○ 遠隔表示式（ ○ 電文式　○ パルス式 ）（ ○ 買取り　○　）） |
| | ● 量水器桝 | ○ 水道事業者指定品（　○ 貸与品　○ 買取り）　● 標準図ＭＣ形 |
| | ● 弁類 | ○ 図面に特記なき場合の耐圧は5Kとする。<br>● ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。<br>● 水道直結部分の耐圧は、10Kとする。 |
| | ○ 水栓柱 | ○ |
| | ● 管の地中埋設深さ | 埋設深さ（管の上端深さ）は原則として、車両通行部分は（ ● ６００㎜　○　㎜）その他の部分は（ ● 300㎜　○　㎜）以上とする。 |
| | ● 建築物導入部 | ● 建築物導入部の変位吸収方法は、標準図（建築物導入部の変位吸収配管要領 ）による。（ ○（ａ）　○（ｂ）　●（ｃ）） |
| | | ○ 別図による。 |
| | ● 引込納付金等 | ○ 要（ ○本工事（　）　○別途 ）● 不要 |
| ● 排水設備 | ● 配管材料 | (１) 屋内　汚水管　●排水硬質塩化ビニルライニング鋼管　雑排水管（給湯室系統）○<br>雑排水管　●排水硬質塩化ビニルライニング鋼管　○<br>通気管　●配管用炭素鋼鋼管(白)<br>ﾎﾞﾝﾌﾞｱｯﾌﾟ管　○<br>(２) 屋外　第一桝まで　○<br>○<br>桝間　●硬質塩化ビニル管(VP) |
| | ● 台所流し等の排水管 | 洗面器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。<br>台所流し等の床上露出部分の配管は、ビニル管（RF-VP）でもよい。<br>大便器、小便器、洗面器及び掃除流しとの配管は、ビニル管（RF-VP）とする。 |
| | ○ 満水試験継手 | 図示の位置に取り付ける。 |
| | ● 放流納付金等 | ○ 要（ ○本工事（　）　○別途 ）● 不要 |
| ○ 給湯設備 | ○ 配管材料 | ○ステンレス鋼管(SUS304) |
| | ○ 弁類 | ○ 図示による。（特記なき場合の耐圧は、5Kとする。）<br>○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。 |
| | ○ 保温 | 湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5のh・(f)・Ⅾとする。 |
| ● 消火設備 | ○ 配管材料 | (１) 屋内消火栓　一般配管　○<br>地中配管　○<br>(２) 連結送水管　一般配管　○<br>地中配管　○<br>(３)　○ |
| | ○ 屋内消火栓種別 | ○ 広範囲型2号消火栓　○易操作性1号消火栓　○ 1号消火栓　○ 2号消火栓 |
| | ○ 屋内消火栓開閉弁 | ○ 10Ｋ |
| | ○ 地中埋設配管の接合 | 外面被覆鋼管の呼び径100A以下はねじ接合とする。 |
| | ○ 保温 | ○ 屋外露出部分　○ 有（ ○ ｅ2・(ﾊ)・Ⅶ　○　）　○ 無 |
| | ○ 不活性ガス消火設備 | 別図による。 |
| | ○ 泡消火設備 | 別図による。 |
| | ● 地下式消火栓 | ●単口75φ |
| | ● 消火器 | ●ABC-10型 |
| ○ 厨房設備 | ○ 機器の寸法 | 概略寸法とする。 |
| | ○ 機器の機能等 | 図示による。 |
| ○ ガス設備 | ○ 配管材料 | ＬＰガス　一般ガス導管事業者の供給規定による。 |
| | ○ メーター | ○ 親メーター（ ○実測式　○パルス式 ）（ ○ 貸与品　○　）<br>○ 子メーター（ ○実測式　○パルス式 ）（ ○ 買取り　○　） |
| | ○ ガス漏れ警報器 | ○ 本工事（図示による）　○ 別途工事<br>外部警報端子（○ 無　○ 有） |

| | | |
|---|---|---|
| ● 空気調和設備 | ● 設計温湿度 | 外気：一般系統　屋内：一般系統　屋内：個別系統（目標値）<br>温度　湿度　温度　湿度　温度　湿度　温度　湿度<br>夏季　9時　32.0℃　67.1%<br>夏季　12時　34.3℃　59.2%　28℃　45%※　℃　%　℃　%<br>夏季　14時　34.8℃　58.0%<br>夏季　16時　33.7℃　60.1%<br>冬季　1.7℃　41.7%　19℃　40%　℃　%　℃　%<br>※夏季の湿度は、設計計算上の数値であり、目標値とする。 |
| | ○ 鋼板製煙道 | 鋼板厚（　○ 3.2㎜　○ 4.5㎜） |
| | ● ダクト | ● 低圧ダクト（　● コーナーアングルボルト工法（長辺の長さが1,500㎜以下の部分）<br>● アングルフランジ工法）<br>● スパイラルダクトダクト（　● 低圧　○　）<br>○ 高圧1ダクト（ 範囲は図示による。） |
| | ● チャンバー | （１）内貼を施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。<br>（２）空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設ける。なお、大きさは図示による。<br>（３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。 |
| | ○ ダンパー | （１）防煙ダンパー　復帰方式 遠隔復帰式(定格入力はDC24V)<br>（２）ピストンダンパー　復帰方式 遠隔復帰式 |
| | ● 配管材料 | （１）冷温水管　○<br>（２）冷却水管　○<br>（３）蒸気管　給気管　○<br>○<br>還管　○<br>（４）油管　○<br>（５）冷媒管　● 冷媒用断熱材被服銅管<br>（６）膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管は、配管用炭素鋼鋼管（白）とする。<br>（７）ドレン管　● 配管用炭素鋼鋼管(白) |
| | ○ 弁類 | ○ 図面に特記なき場合の耐圧は、JIS又はJV5Kとする。<br>○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。<br>○ ファンコイルユニットと冷温水管の接続部（往・還）には、ボール弁を取付ける。 |
| | ●保温及び消音内貼 | 標準仕様書第2編3.1.4によるほか、次による。<br>● 外気ダクトの保温要（保温の厚さ25㎜、範囲は図示による。）<br>● 還気ダクトの保温要（保温の厚さ25㎜、範囲は図示による。）<br>○ 蒸気還り管の保温不要（屋内露出は除く。）<br>● 冷媒管の保温外装は次による。<br>○ 図示による<br>○ 屋内露出箇所　（ ○　）<br>● 屋外露出箇所　（ ●SUS製ラッキング　）<br>○ 膨張管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。<br>○ 建物内のエア抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。（エア抜き弁以降の配管は除く。）<br>○ 暗渠内（ピット内を含む）の空調用ドレン管は保温（○有　○無）とする。 |
| ● 換気設備 | ● ダクト | ● 低圧ダクト（　● ｺｰﾅｰｷﾞｱﾙﾄ工法（長辺の長さが1,500㎜以下の部分）<br>● ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法）<br>● スパイラルダクトダクト（　● 低圧　○　）<br>○ 高圧1ダクト（ 範囲は図示による。）<br>● 厨房系統の排気ダクトは、標準仕様書第3編2.2.2.2のダクトの板厚の項より１番手厚いものとする。（範囲は図示による） |
| | ○ ダンパー | 空気調和設備の当該項目による。 |
| | ○ シールする排気ダクトの系統 | ○ 厨房系統　○ 浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統<br>○ |
| | ● チャンバー | 空気調和設備の当該項目による。 |
| | ● 保温 | ● 全熱交換ユニット用の外気取入れダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。<br>● 全熱交換ユニット用の排気用ダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。<br>○ （○厨房　○湯沸室）の隠ぺい部ダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。 |
| ○ 排煙設備 | ○ ダクト | ○ 亜鉛鉄板　○ 普通鋼板（厚１．６㎜） |
| | ○ 排煙口の形式 | ○ パネル形（　○ 天井取付　○ 壁取付）<br>○ スリット形（　○ 天井取付　○ 壁取付）<br>○ ダンパー形（　○ 天井内取付　○　） |
| | ○ 排煙口開放及び復帰方式 | ○ 電気式（遠隔操作　○ 要　○ 不要）<br>排煙口から手動解放装置への配線は、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による<br>耐熱・耐火ケーブルとする。 |
| | ○ 排煙風量測定 | 建築設備定期検査業務基準書平成2016年版（(一財)日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準じる。 |
| ○ 自動制御設備 | ○ システム構成その他 | 別図による |
| | ○ 電気計装用配線 | 電線及びＥＭケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。<br>屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。<br>天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。 |

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

## ● 撤去工事

| | |
|---|---|
| ● 保　温　材 | 保温材は、配管・ダクト等より分離する。 |
| ● 支 持 金 物 等 | ダクト及び配管等の支持金物及び吊り金物は本工事にて撤去する。 |
| ○ 石 綿 含 有 品 | 石綿含有分析調査　○ 本工事　○ 別途<br>撤去方法　○ 図示による　○ |
| ● 発 生 材 の 処 理 | ● 金属類　（ ○ 機器類　● ダクト　● 配管　○ その他の金属　）の処理は<br>（ ○ 物品管理者に引き渡し　● 構外搬出適切処理　）とする。<br>○ 特別管理産業廃棄物（ ○　○　）の処理は<br>（ ○ 別途　○ 構外搬出適切処理　）とする。<br>○ 石綿含有産業廃棄物（ ○ 配管用成形保温材　○ ﾌﾗﾝｼﾞ用ｶﾞｽｹｯﾄ ）の処理は<br>（ ○ 別途　○ 構外搬出適切処理　）とする。<br>● 上記以外のもの　（ ○　○　）の処理は<br>（ ○ 別途　● 構外搬出適切処理　）とする。<br>●現場説明書による。 |
| ○ 冷媒（フロン類）の回収 | ○ 本工事　○ 別途<br>冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第３編２．４．３により、次の書類を監督職員に提出する。<br>○ フロン回収行程管理表の写し<br>○ 特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）の写し |

別表－１

| 品　目 | 機材等名 |
|---|---|
| | |

香 山 建 築 研 究 所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

# 機　器　表

（注）記載事項の適用について、●印の付いたものを適用する。

## ●マルチパッケージ形空気調和機

屋外機

| 記号 | 冷房能力（kW） | 暖房能力（kW） | 機器入力 相 | V | kW | 台数 | 系統 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ACP－1 | 22.4 | 25.0 | 3 | 200 | 6.0 | 1 | 御座所 |
| ACP－2 | 40.0 | 45.0 | 3 | 200 | 11.0 | 1 | 休憩スペース |
| ACP－3 | 22.4 | 25.0 | 3 | 200 | 6.0 | 1 | 管理者控室 |

・室外機は高効率タイプの室外機とする。
・マルチエアコンの室内機には冷媒漏洩用の遮断弁装置を付属とすること。

屋内機

| 記号 | 冷房能力（kW） | 暖房能力（kW） | 風量（m³/h） | 機外静圧（Pa） | 送風機（室内） 相 | V | kW | 補助加熱器 方式 | 相 | V | kW | 設置形式 | 運転方法 | 台数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ACP－1-1 | 5.6 | 6.3 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－1-2 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－1-3 | 7.1 | 8.0 | 1170 | 100 | 1 | 200 | 0.3 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－2-1 | 5.6 | 6.3 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－2-2 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－2-3 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 2 |
| ACP－2-4 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－2-5 | 5.6 | 6.3 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－2-6 | 7.1 | 8.0 | 1170 | 100 | 1 | 200 | 0.3 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－3-1 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 同時運転 | 1 |
| ACP－3-2 | 4.5 | 5.0 | 960 | 100 | 1 | 200 | 0.2 | | | | | CID | 個別運転 | 1 |
| ACP－3-3 | 9.0 | 10.0 | 1740 | 100 | 1 | 200 | 0.4 | | | | | CID | 個別運転 | 1 |

備　考

1．冷房能力及び暖房能力は JIS B 8616 による。
2．暖房能力には補助加熱器の能力を含む。
3．冷媒はオゾン層破壊係数 0 のものとする。
4．電気ヒーターを組み込む場合は送風機とインターロックする。
5．屋内機、屋外機間の電気配線（アース共）は製造者の標準仕様とする。
6．冷媒配管の口径は製造者の標準仕様とする。
7．冷媒分岐継手又は分岐ヘッダーは附属とする。
8．屋外機の機器入力の値は圧縮機電動機出力、送風機電動機出力及び制御用電源の合計値とする。
9．リモートコントローラーは附属とする。
●集中管理リモコン（ワイヤード）：（1個 ●ACP-1-1,1-2,1-3,ACP-2-1,2-2,2-3,2-4,2-5 ACP-3-1,3-2,3-3用）
（●全体/個別 ON-OFF機能 ●温度設定 ●状態監視 ●異常表示 ●ｽｹｼﾞｭｰﾙ運転 ）
●火災感知器連動停止の端子を有すること。
●個別リモコン（ ●ワイヤード ○ワイヤレス）：12個（1台用） 1個（2台用）
10．遠方発停用端子（ ●要 ○不要）
11．屋外機の基礎（ ●標準基礎 ○防振基礎）
12．高調波対策として、直流リアクトル等により「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制ガイドライン（資源エネルギー庁）」及び「高調波抑制対策技術指針（ ー社）日本電気協会）」による換算係数K1=1.8以下とする。
13．冷房能力28kW以下の屋外機もフィンガードを附属とする。

## ● 消音ボックス付送風機

| 記号 | 形式 | 設置方法 | 仕様 m³/h | 静圧 Pa | 電動機 相 | V | kW | 極 | 許容騒音値（dB(A)） | 台数 | 系統 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FE－1 | ●遠心 ○斜流 | ○床置形 ●天井吊形 | 300 | 30 | 1 | 100 | 0.1 | | 50 | 1 | 倉庫 | 1．フランジ方式の場合はダクト接続用フランジを附属とする。 |
| FE－2 | ●遠心 ○斜流 | ○床置形 ●天井吊形 | 550 | 50 | 1 | 100 | 0.1 | | 50 | 1 | WC1,2他 | 2．床置形は標準基礎とする。 |
| FE－3 | ●遠心 ○斜流 | ○床置形 ●天井吊形 | 500 | 30 | 1 | 100 | 0.1 | | 50 | 1 | 売店・キッチン | 3．消音ﾎﾞｯｸｽ付送風機の許容騒音値測定法は JIS B 8346 による。 |
| ー | | | | | | | | | | | | 4．電動機の周囲温度は４０℃とする。 |
| ー | | | | | | | | | | | | 5．呼称は参考とする。 |

## ● 全熱交換ユニット

| 記号 | 形式 | 設置方法 | 仕様 m³/h | 静圧 Pa | 電動機 相 | V | kW | 極 | 許容騒音値（dB(A)） | 台数 | 系統 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HEU－1 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 480 | 110 | 1 | 100 | 0.4 | | ——— | 1 | 倉庫展示室 A,B | 1．操作スイッチ（ ●ワイヤード（配線共） ○ワイヤレス）は機器附属品とし、運転表示ランプ付とする。 |
| HEU－2 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 540 | 120 | 1 | 100 | 0.4 | | ——— | 1 | 休憩スペース A,B | 2．集中リモコン（ワイヤード）１個を付属する。（HEU-1,2,3,4,5,6,7用） |
| HEU－3 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 600 | 100 | 1 | 100 | 0.4 | | ——— | 1 | 休憩スペース C・D | （●全体/個別 ON-OFF機能 ●状態監視 ●異常表示 ●ｽｹｼﾞｭｰﾙ運転） |
| HEU－4 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 600 | 100 | 1 | 100 | 0.4 | | | 1 | 休憩スペース E,F | |
| HEU－5 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 540 | 100 | 1 | 100 | 0.4 | | | 1 | 休憩室廻下1 | |
| HEU－6 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 100 | 50 | 1 | 100 | 0.2 | | | 1 | 中央玄関 | |
| HEU－7 | ●天井隠ぺい形 ○カセット形 ○ | | 200 | 80 | 1 | 100 | 0.2 | | | 1 | 売店・キッチン | |

## 器　具　表

| 名称 | 仕様 JIS記号 | 付属品 | 1F WC1 | WC2 | 多機能トイレ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 洋風大便器（専用洗浄弁） | C810S | タッチスイッチ式（上水仕様）、温水洗浄便座、貯湯式、擬音装置 | 1 | 1 | | 2 |
| 同上紙巻器 | | ストック付（3個） 材質：SUS製 | 1 | 1 | | 2 |
| 洗面器 | L-410 | 自動水栓（AC100V、手動スイッチ有）、水石けん入れ（洗面器一体形） | 1 | 1 | | 2 |
| ベビーシート | 〔建築工事〕 | 床・壁固定型 | | | 1 | 1 |
| ベビーチェア | 〔建築工事〕 | 平面設置タイプ | | | 1 | 1 |
| フッティングボード | | 壁固定型 | | | 1 | 1 |

## 衛生器具パック

器具表

| 器具名称 | 連数 | JIS記号 | 仕様 | 1階 多目的トイレ | | | 合計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 多目的トイレパック | 1連 | | | 1 | | | 1 | |
| 大便器（専用洗浄弁） | | C810S | タッチスイッチ式（上水仕様）、温水洗浄便座：瞬間式、便ふた無し<br>リモコン（ＡＣ電源）、可動式手すり（はね上げ式）、背もたれ、Ｌ型手摺 | | | | | |
| 洗面器 | | L410 | 自動水栓（AC100V、手動スイッチ有）、水石けん入れ（洗面器一体形） | | | | | |
| 汚物流し | | ー | 洗浄弁：タッチスイッチ式（上水仕様）、シャワー水栓、電気温水器、水石けん入れ<br>鏡、ワンタッチ型紙巻器 | | | | | |
| 手洗い器 | | ー | 自動水栓（自己発電型）<br>ワンタッチ型紙巻器（樹脂製） | | | | | |

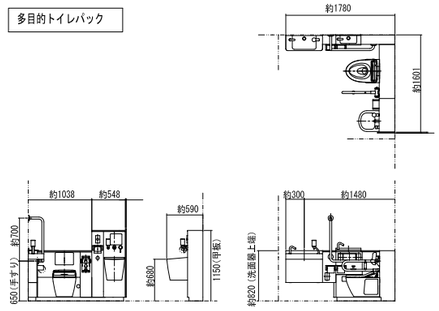
仕様書

| 部位 | 名称 | 仕様 | 工事区分 パック工事 | 別途建築工事 |
|---|---|---|---|---|
| ケーシング | フレーム | 溶融亜鉛メッキ鋼板 | ○ | |
| | ライニング甲板 | 人工大理石 | ○ | |
| | 洗面カウンター | 人工大理石 | ○ | |
| | ライニング前板 | 化粧鋼板 | ○ | |
| | 洗面前板 | 化粧鋼板、ケンドン式 | ○ | |
| | 巾木 | ステンレスヘアライン仕上げ H=60 | ○ | |

［特記事項］
・甲板、カウンター、幅木廻りのコーキングは材工共パック外工事とする。
・建築壁、アクセサリー類取付用補強材はパック外工事とする。
ただし、パックに取り付けるアクセサリー類の補強はパック工事とする。
・側板の有無は図示による。

## 参考姿図

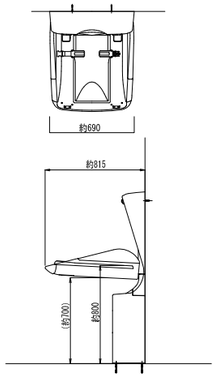
多目的トイレパック



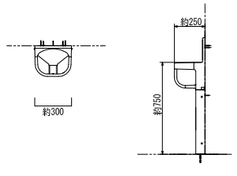

スペア付紙巻器（横型ロングタイプ）



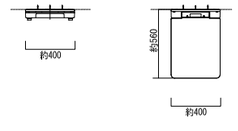

ベビーシート




ベビーチェア（平面設置タイプ）



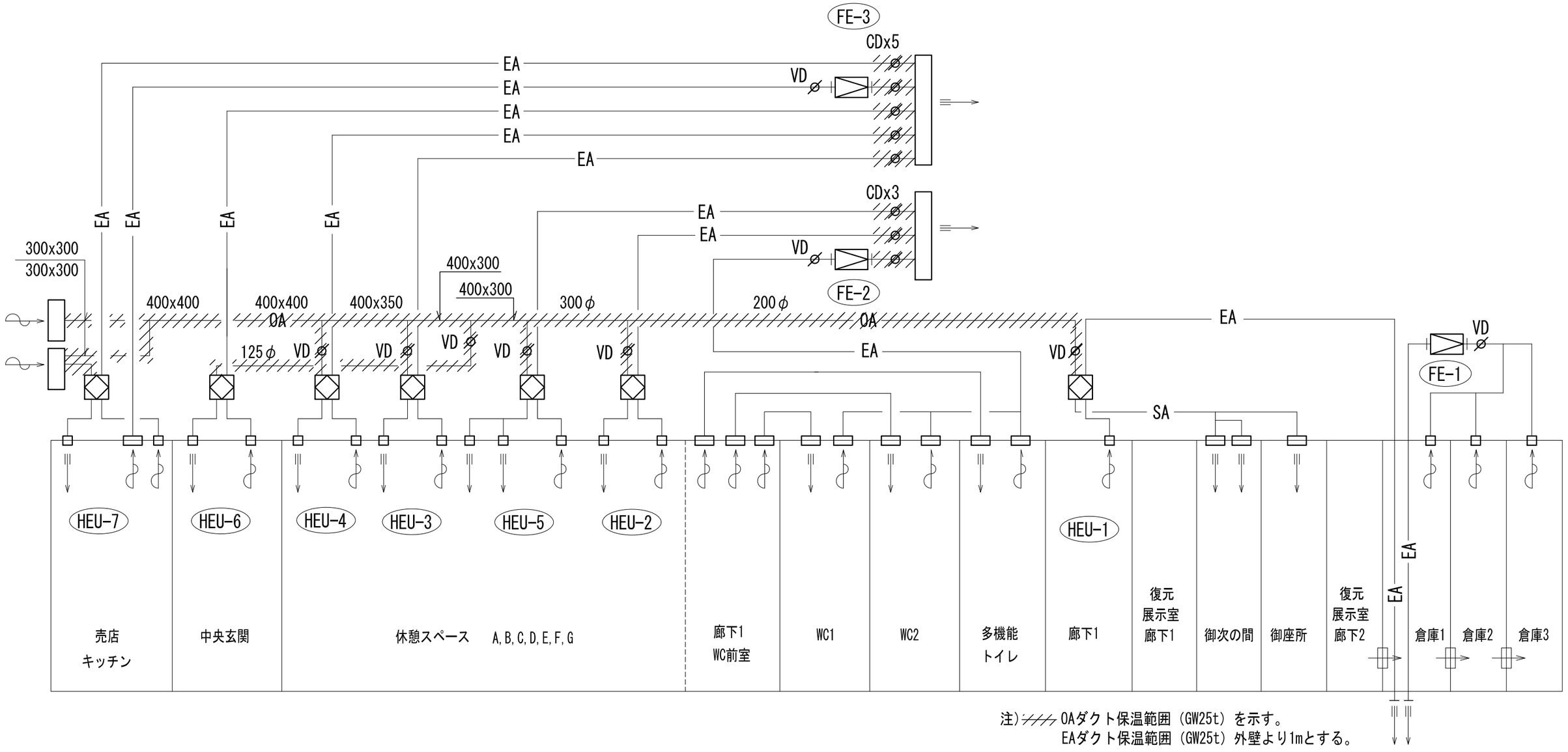

フィッティングボード





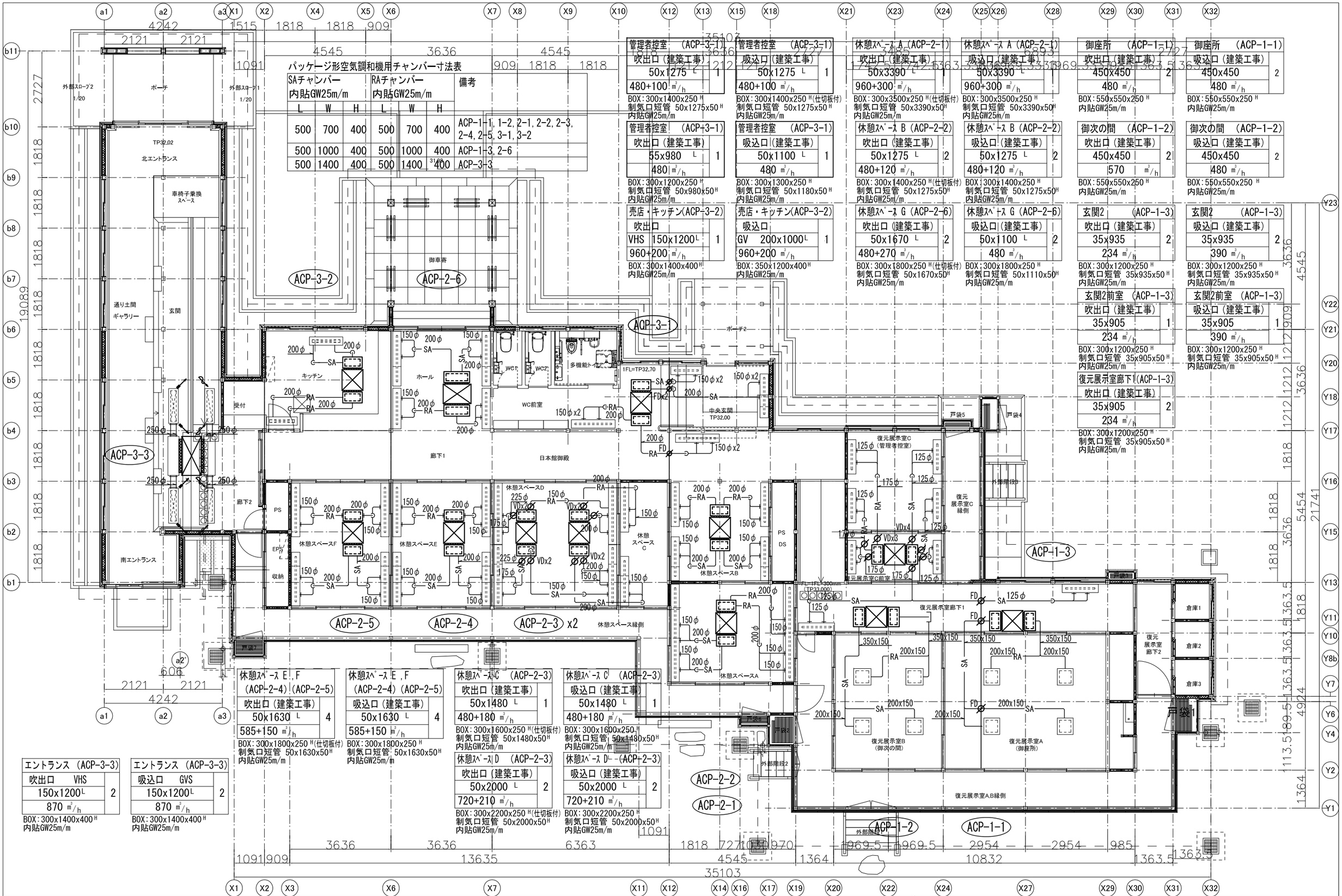
香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）


令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）
機器表・衛生器具表　A3：S=1/10
環境省新宿御苑管理事務所




注) ////// OAダクト保温範囲（GW25t）を示す。
EAダクト保温範囲（GW25t）外壁より1mとする。

| | | |
|---|---|---|
| 香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号) | 令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ)<br>空調・換気設備ダクト系統図　A3：S=1/10<br>環境省新宿御苑管理事務所 | M-04<br>147<br>164 |




注）1) 吹出口、吸込口ボックスを示す。（本工事）

2) 吹出口、吸込口で（建築工事）と記載のあるものの開口は建築工事区分とする。

3) 御座所（ACP-1-1）、御次の間（ACP-1-2）のBOXは面数を5とする。

4) BOXの仕切板はパッケージ形空気調和機と全熱交換ユニットの吹出気流を分離するものである。

香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367970号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

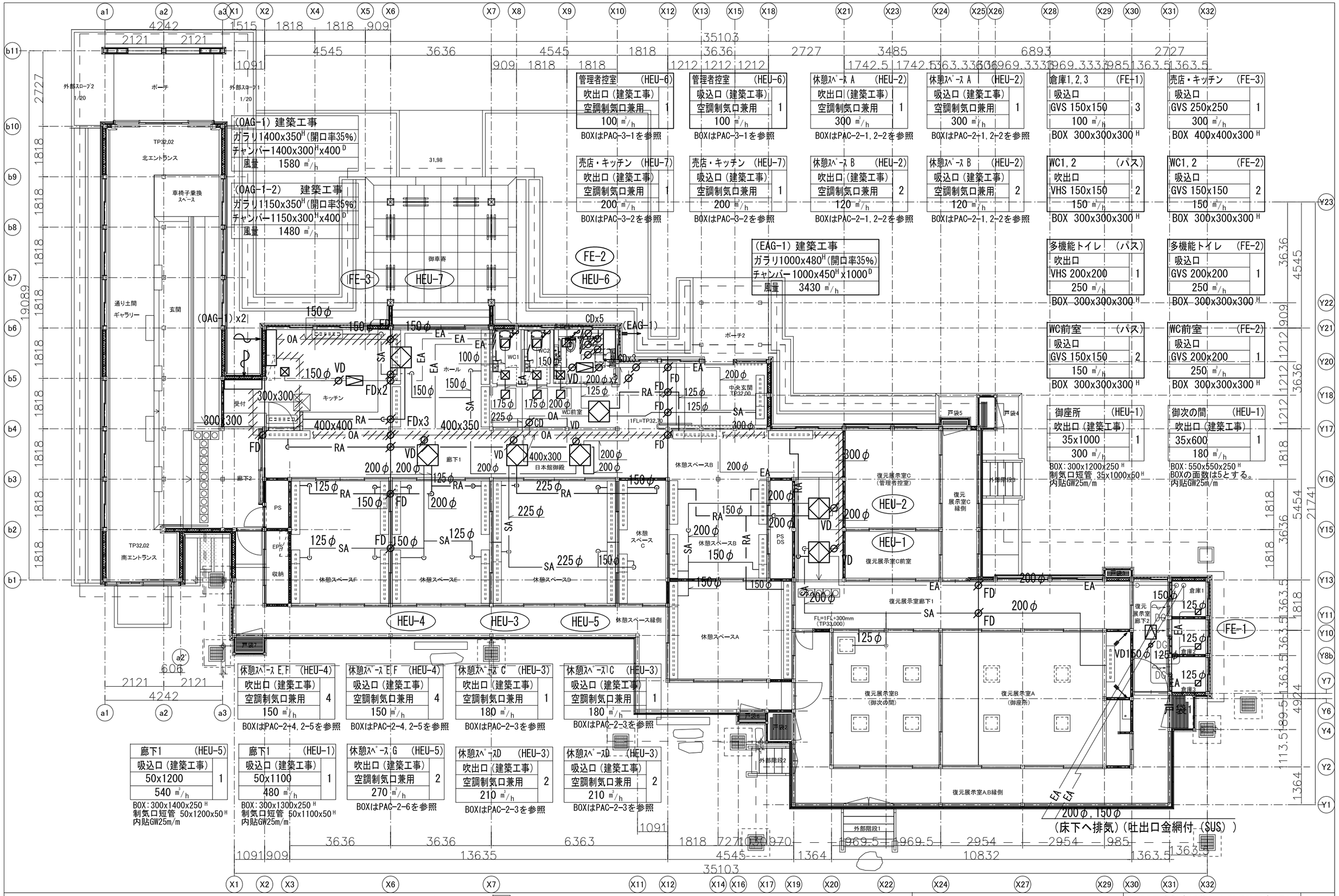
空調設備ダクト平面図 A1：S=1/60 A3：S=1/120

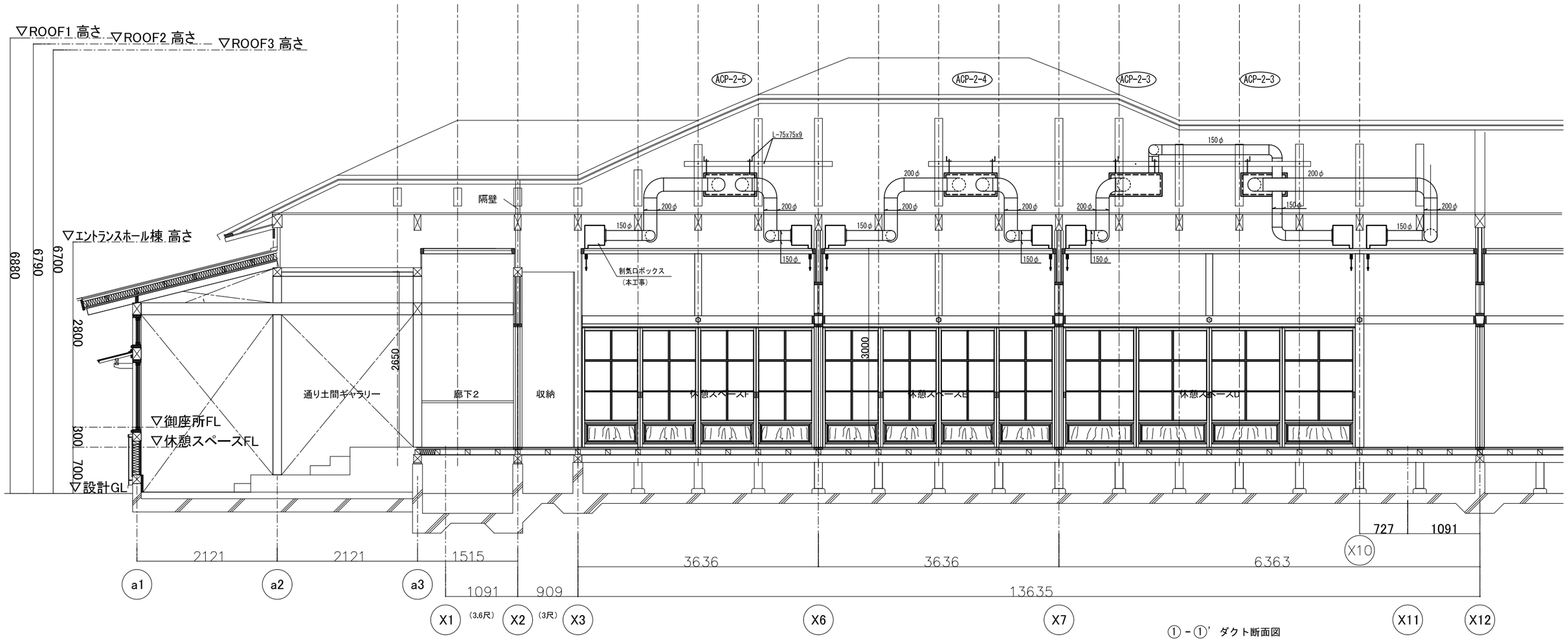
環境省新宿御苑管理事務所

M-05

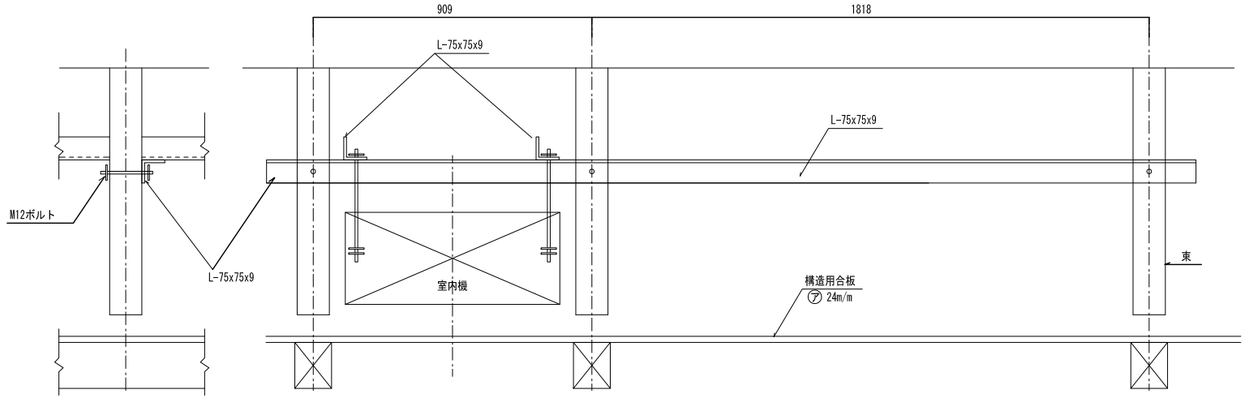
148

164

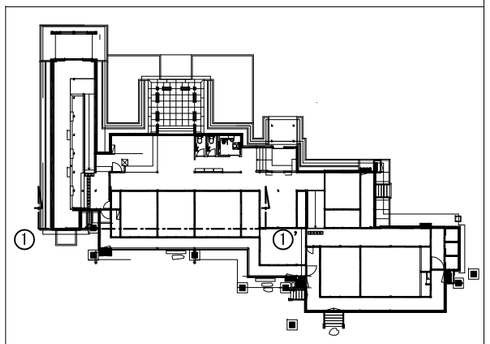

(OAG-1) 建築工事
ガラリ1400x350H(開口率35%)
チャンバー1400x300Hx400D
風量 1580 m³/h
(OAG-1-2) 建築工事
ガラリ1150x350H(開口率35%)
チャンバー1150x300Hx400D
風量 1480 m³/h
(EAG-1) 建築工事
ガラリ1000x480H(開口率35%)
チャンバー1000x450Hx1000D
風量 3430 m³/h
管理者控室 (HEU-6) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 1 100 m³/h BOXはPAC-3-1を参照
管理者控室 (HEU-6) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 1 100 m³/h BOXはPAC-3-1を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ A (HEU-2) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 1 300 m³/h BOXはPAC-2-1,2-2を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ A (HEU-2) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 1 300 m³/h BOXはPAC-2-1,2-2を参照
倉庫1,2,3 (FE-1) 吸込口 GVS 150x150 3 100 m³/h BOX 300x300x300H
売店・キッチン (FE-3) 吸込口 GVS 250x250 1 300 m³/h BOX 400x400x300H
売店・キッチン (HEU-7) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 1 200 m³/h BOXはPAC-3-2を参照
売店・キッチン (HEU-7) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 1 200 m³/h BOXはPAC-3-2を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ B (HEU-2) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 2 120 m³/h BOXはPAC-2-1,2-2を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ B (HEU-2) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 2 120 m³/h BOXはPAC-2-1,2-2を参照
WC1,2 (パス) 吹出口 VHS 150x150 2 150 m³/h BOX 300x300x300H
WC1,2 (FE-2) 吸込口 GVS 150x150 2 150 m³/h BOX 300x300x300H
多機能トイレ (パス) 吹出口 VHS 200x200 1 250 m³/h BOX 300x300x300H
多機能トイレ (FE-2) 吸込口 GVS 200x200 1 250 m³/h BOX 300x300x300H
WC前室 (パス) 吸込口 GVS 150x150 2 150 m³/h BOX 300x300x300H
WC前室 (FE-2) 吸込口 GVS 200x200 1 250 m³/h BOX 300x300x300H
御座所 (HEU-1) 吹出口(建築工事) 35x1000 1 300 m³/h BOX:300x1200x250H 制気口短管 35x1000x50H 内貼GW25m/m
御次の間 (HEU-1) 吹出口(建築工事) 35x600 1 180 m³/h BOXの面数は5とする。 内貼GW25m/m
休憩ｽﾍﾟｰｽ E,F (HEU-4) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 4 150 m³/h BOXはPAC-2-4,2-5を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ E,F (HEU-4) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 4 150 m³/h BOXはPAC-2-4,2-5を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ C (HEU-3) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 1 180 m³/h BOXはPAC-2-3を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ C (HEU-3) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 1 180 m³/h BOXはPAC-2-3を参照
廊下1 (HEU-5) 吸込口(建築工事) 50x1200 1 540 m³/h BOX:300x1400x250H 制気口短管 50x1200x50H 内貼GW25m/m
廊下1 (HEU-1) 吸込口(建築工事) 50x1100 1 480 m³/h BOX:300x1300x250H 制気口短管 50x1100x50H 内貼GW25m/m
休憩ｽﾍﾟｰｽ G (HEU-5) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 2 270 m³/h BOXはPAC-2-6を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ D (HEU-3) 吹出口(建築工事) 空調制気口兼用 2 210 m³/h BOXはPAC-2-3を参照
休憩ｽﾍﾟｰｽ D (HEU-3) 吸込口(建築工事) 空調制気口兼用 2 210 m³/h BOXはPAC-2-3を参照
FE-2
HEU-6
FE-3
HEU-7
HEU-4
HEU-3
HEU-5
HEU-2
HEU-1
FE-1
(床下へ排気)(吐出口金網付(SUS))
ポーチ
外部スロープ2 1/20
外部スロープ1 1/20
北エントランス
南エントランス
車椅子乗換スペース
通り土間 ギャラリー
玄関
受付
キッチン
ホール
御車寄
ポーチ2
中央玄関 TP32.00
廊下1
廊下2
日本館御殿
休憩スペースB
休憩スペースC
休憩スペースA
休憩スペースF
休憩スペースE
休憩スペースD
休憩スペース縁側
復元展示室C (管理者控室)
復元展示室C縁側
復元展示室C前室
復元展示室廊下1
復元展示室廊下2
復元展示室B (御次の間)
復元展示室A (御座所)
復元展示室A,B縁側
倉庫1
倉庫2
倉庫3
外部階段1
外部階段2
外部階段3
PS
EPS
収納
TP32.02
TP32.70
FL=TP32.70
FL=FL+300mm (TP33.000)
31.98
CDx5
CDx3
(OAG-1)x2
FDx2
FDx3
VD150φ
戸袋1
戸袋2
戸袋3
戸袋4
戸袋5
戸袋6
戸袋7
4242
2121
2121
1515
1818
1818
909
1091
4545
3636
4545
1818
3636
2727
3485
6893
2727
3510.3
1742.5
1742.5
1363.3
3636
969.3
3333
969.3
3333
985
1363.5
1363.5
19089
2727
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818
606
2121
2121
4242
36.36
36.36
6.363
1818
727
1818
970
1969.5
1969.5
2954
2954
985
1363.5
1363.5
1091
909
13635
4545
1364
10832
35103
5454
21741
3636
4545
3636
909
1212
1212
3636
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818
1818




① - ①’ ダクト断面図




機器吊り方要領図 S=1/20




注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

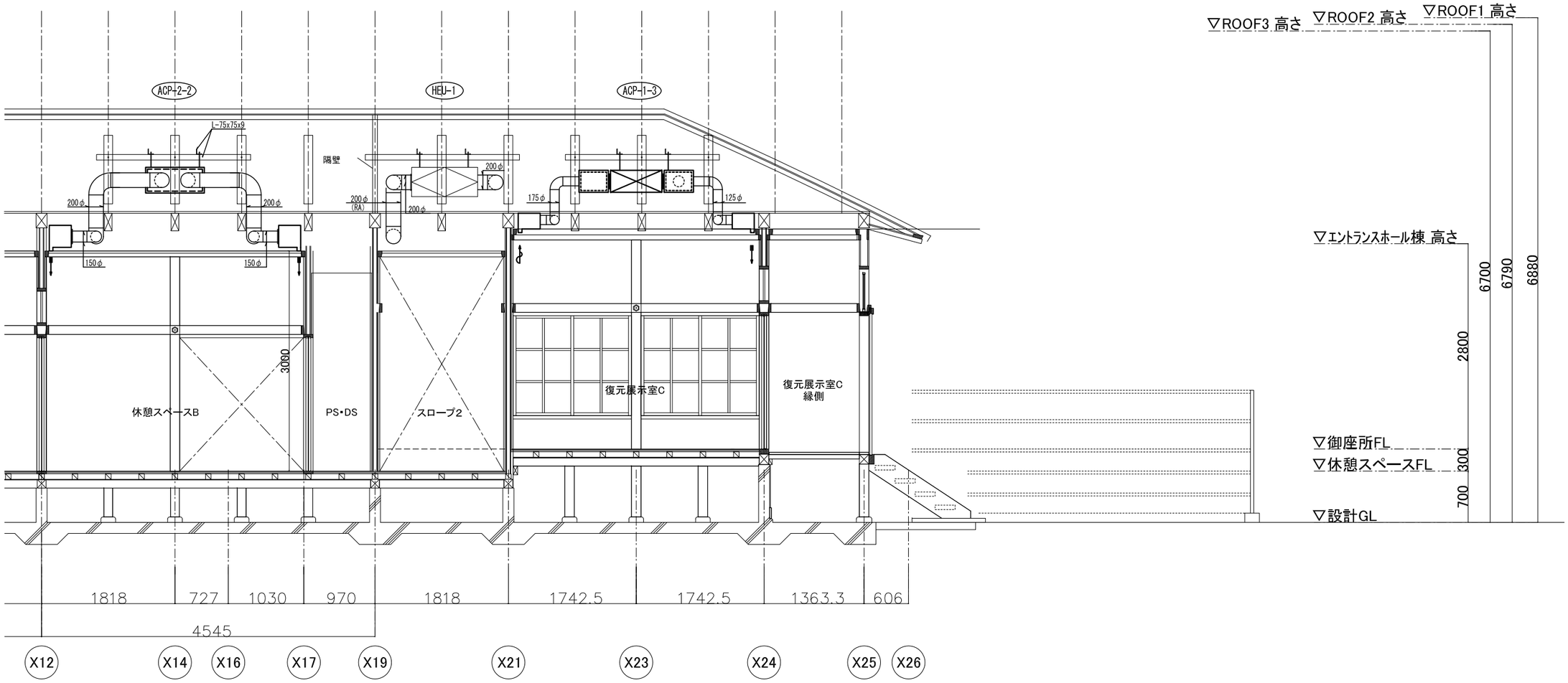
令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

空調・換気設備ダクト断面図 (1-1)

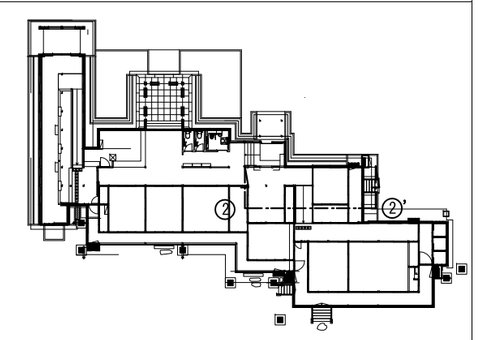
A1 : S=1/30
A3 : S=1/60

環境省新宿御苑管理事務所

M-07
150
164




②－②’ ダクト断面図




注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

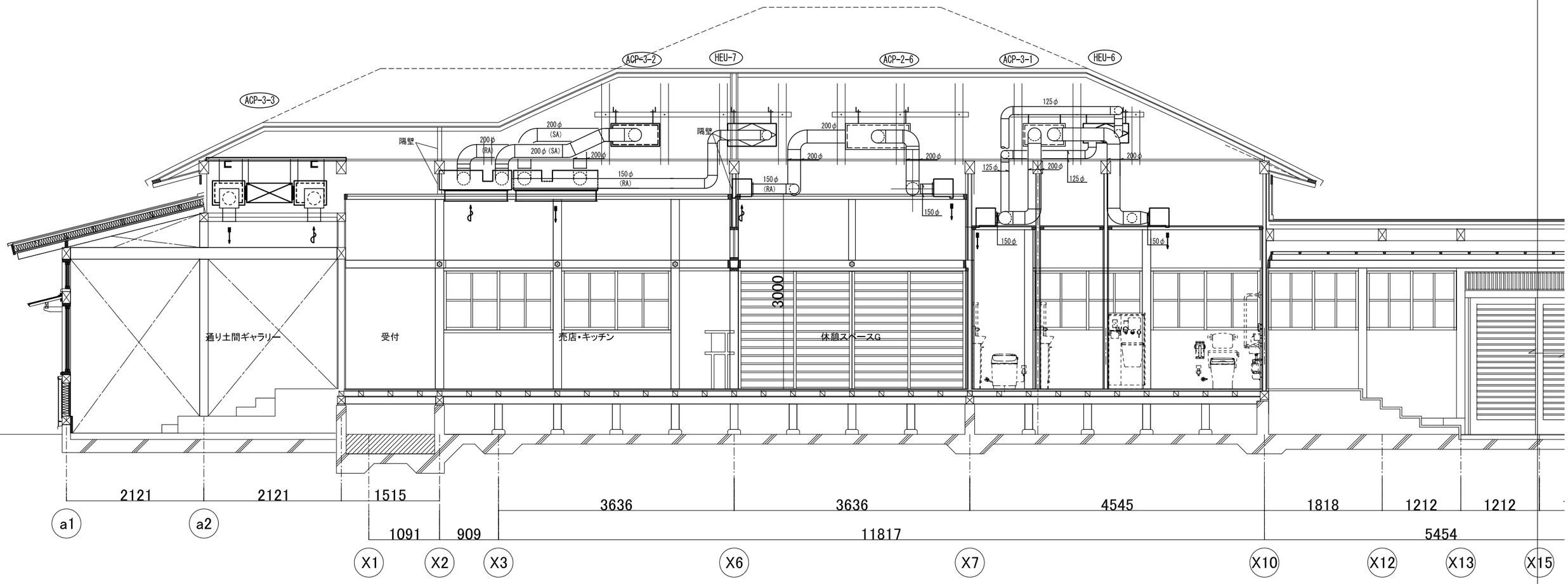
空調・換気設備ダクト断面図 (1-2)

A1：S=1/30
A3：S=1/60

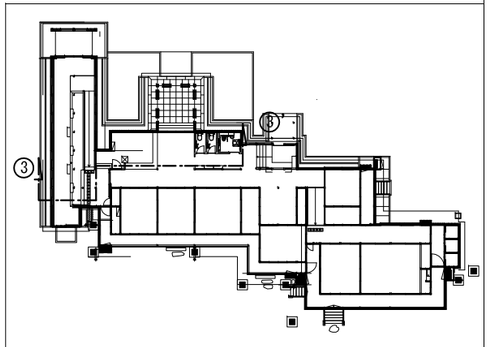
環境省新宿御苑管理事務所

M-08

151
164




③－③’ ダクト断面図




注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

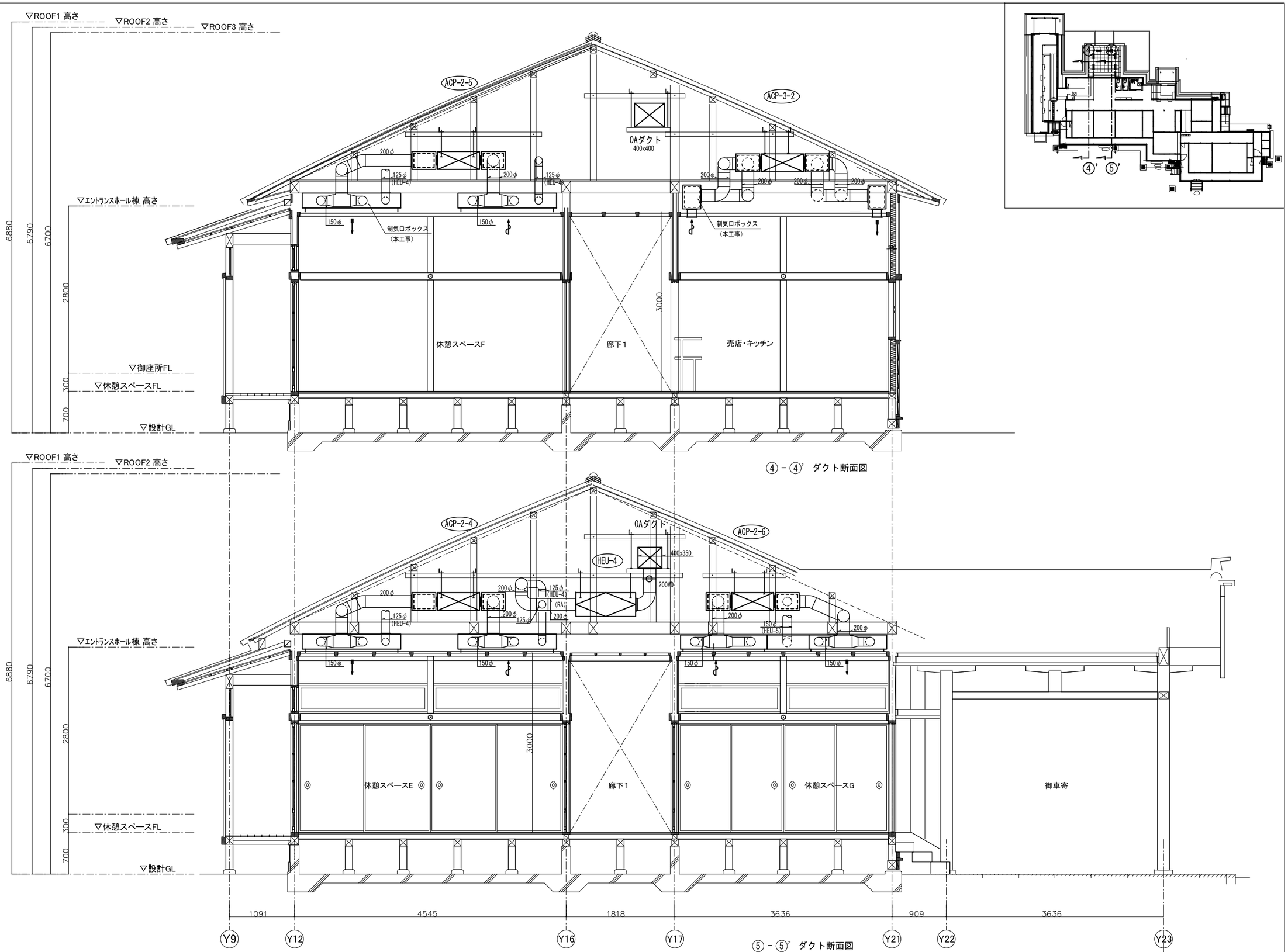
空調・換気設備ダクト断面図 (3)

A1 : S=1/30
A3 : S=1/60

環境省新宿御苑管理事務所

M-09

152
164




注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

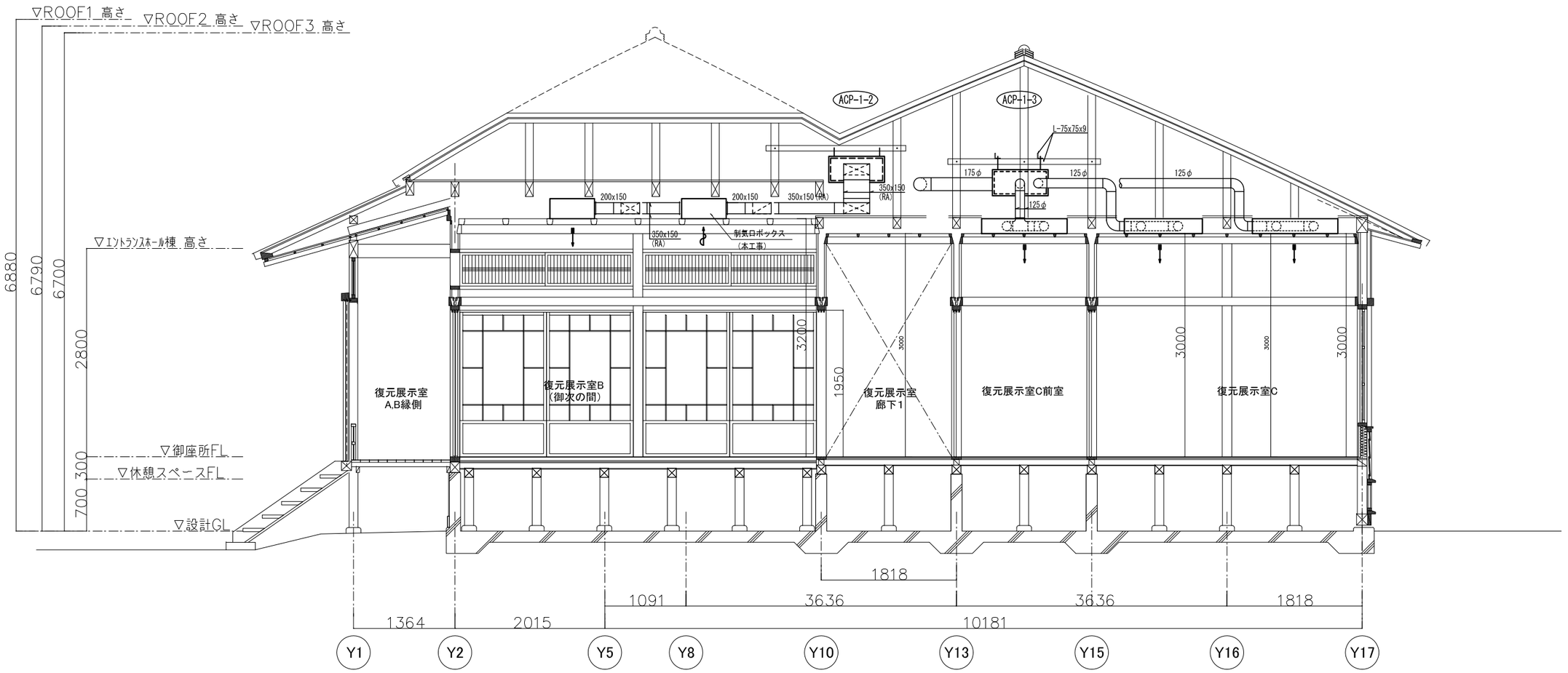
空調・換気設備ダクト断面図 (4)

A1 : S=1/30
A3 : S=1/60

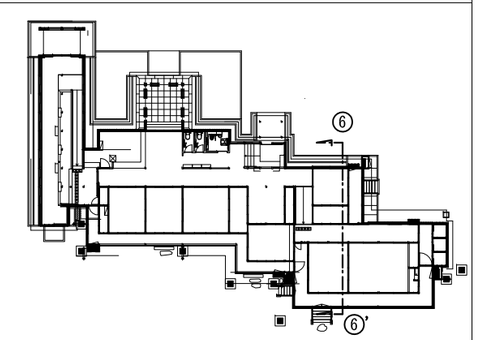
環境省新宿御苑管理事務所

M-10

153
164




⑥－⑥’ ダクト断面図




注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

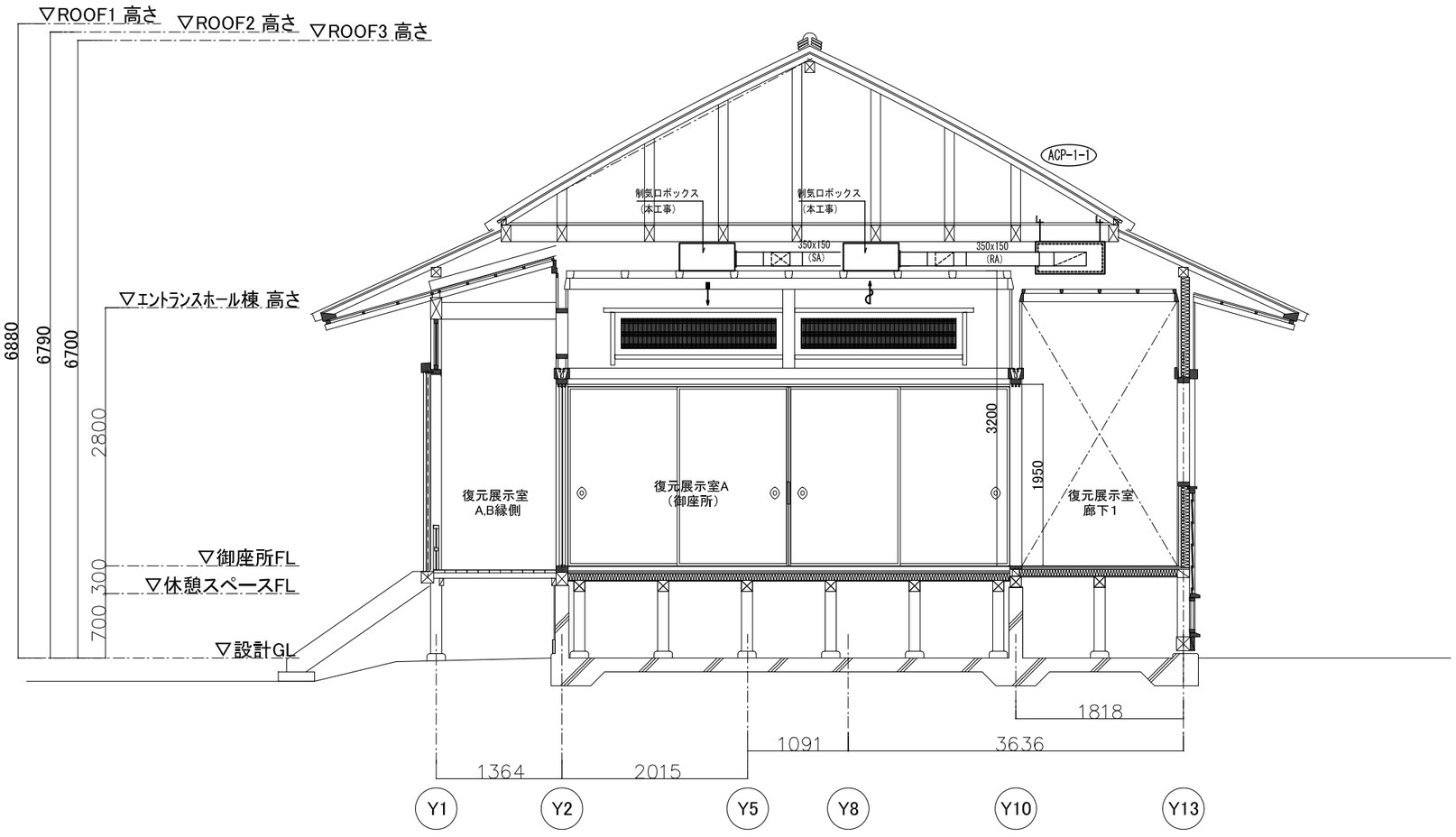
香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）

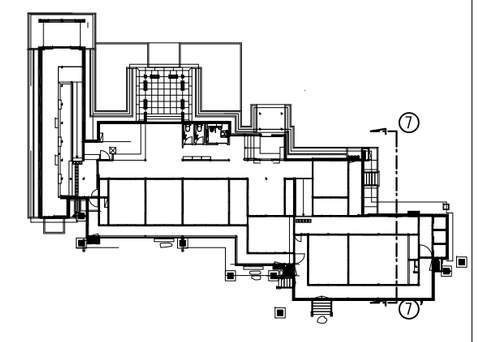
空調・換気設備ダクト断面図 (5)

A1 : S=1/30
A3 : S=1/60

環境省新宿御苑管理事務所




⑦－⑦’ ダクト断面図

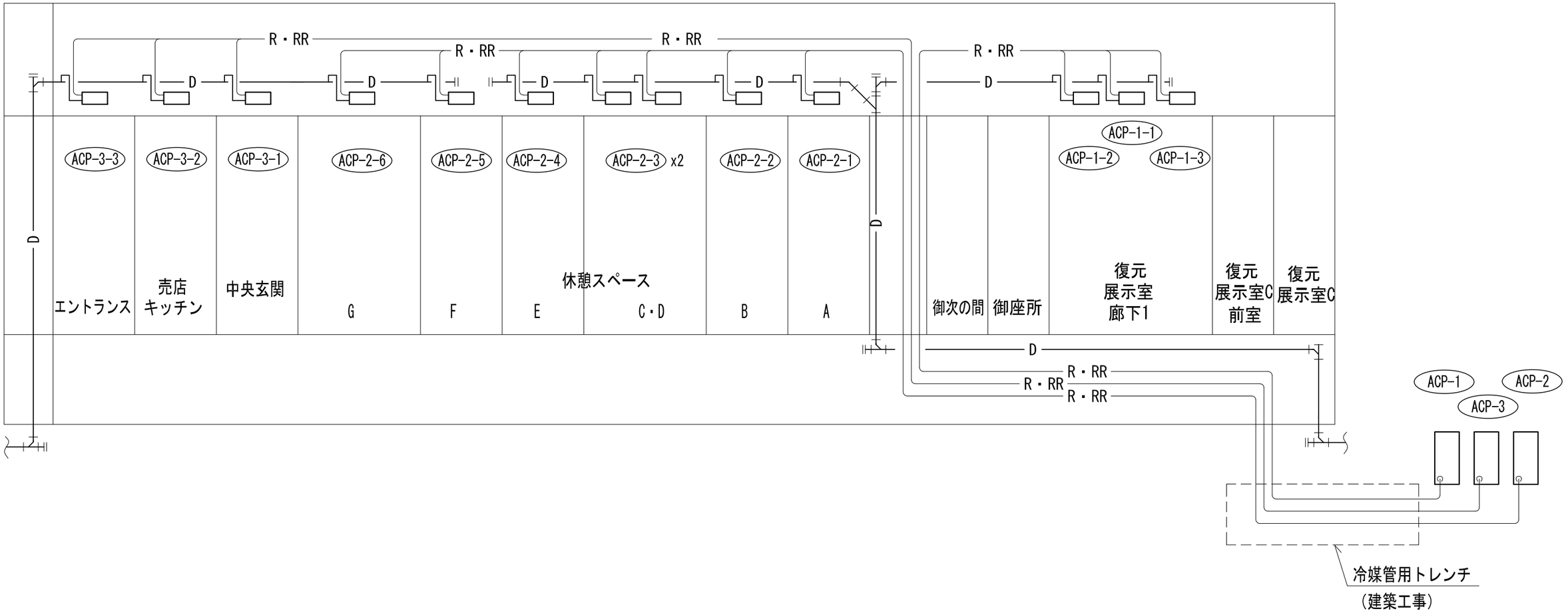



注）機器支持金物（L-75x75x9）は取付共機械設備工事とする。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367070号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）
空調・換気設備ダクト断面図 (6)
A1：S=1/30
A3：S=1/60
環境省新宿御苑管理事務所

M-12
155
164




香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

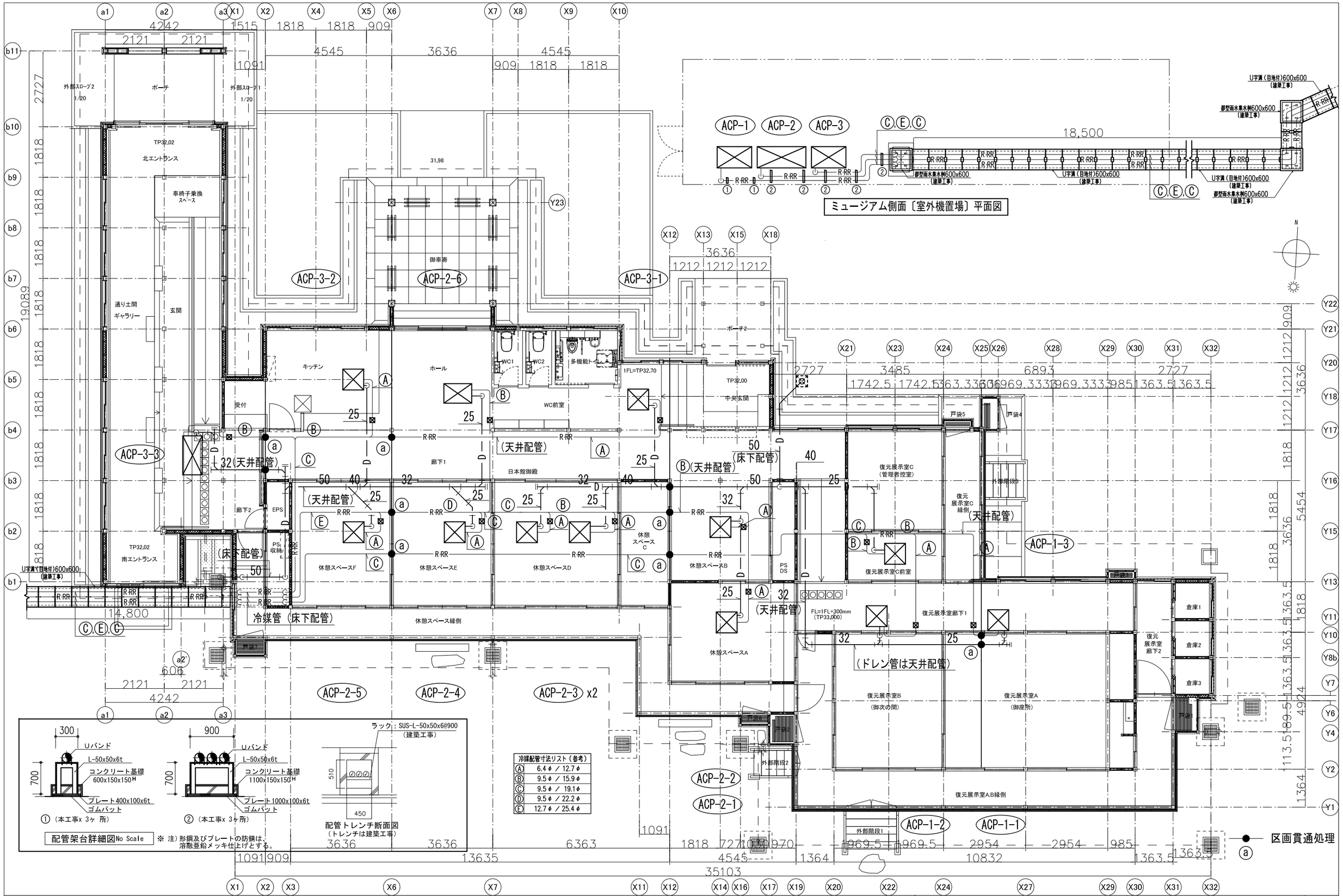
令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ)

空調設備配管系統図　A1：S=N.S　A3：S=N.S

環境省新宿御苑管理事務所

M-13

156/164

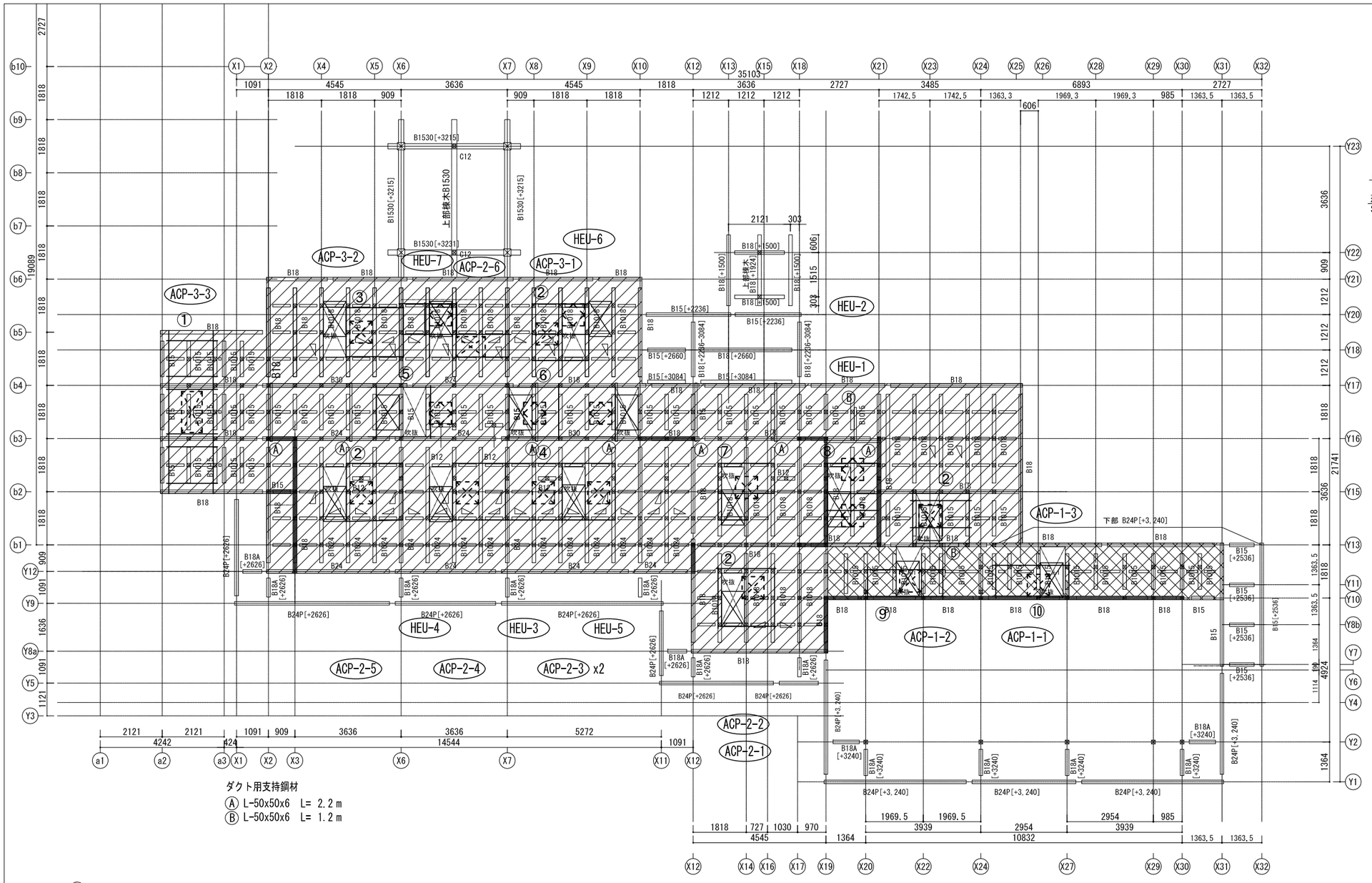


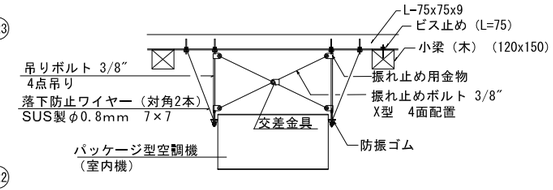

（特記事項）
1.図中 ⋈ は、冷媒漏洩遮断弁装置を示す。
2.外部露出する冷媒配管には、SUS製ラッキングを施すこと。
3.外部U字溝（トレンチ）は、建築工事とする。


香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）


令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）
空調設備配管平面図
A1：S=1/60
A3：S=1/120
環境省新宿御苑管理事務所

M-14
157
164



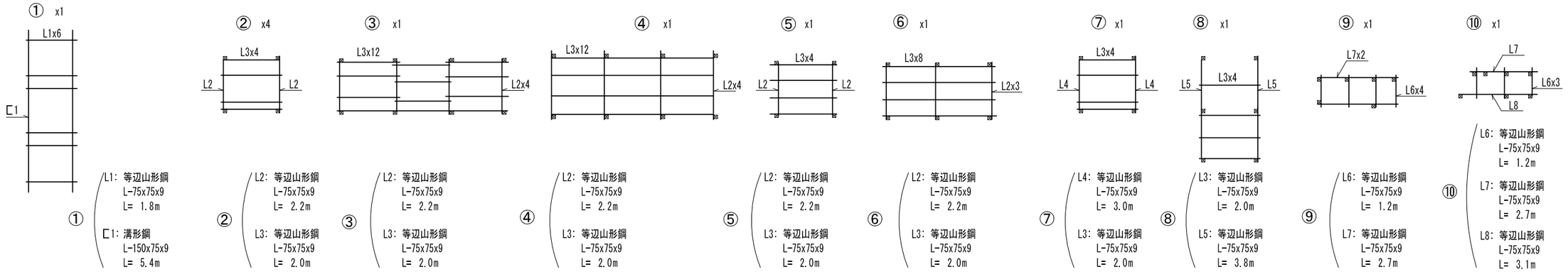




機器振止め要領図

ダクト用支持鋼材
Ⓐ L-50x50x6 L= 2.2 m
Ⓑ L-50x50x6 L= 1.2 m

梁上構造合板の点検用開口を示す。（開口寸法 800x1200）
（建築工事）

⊠ は支持金物を固定する束を示す。
（建築工事）




① L1: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 1.8m
C1: 溝形鋼 L-150x75x9 L= 5.4m

② L2: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.2m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

③ L2: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.2m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

④ L2: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.2m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

⑤ L2: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.2m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

⑥ L2: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.2m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

⑦ L4: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 3.0m
L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m

⑧ L3: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.0m
L5: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 3.8m

⑨ L6: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 1.2m
L7: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.7m

⑩ L6: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 1.2m
L7: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 2.7m
L8: 等辺山形鋼 L-75x75x9 L= 3.1m

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367970号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ)
空調・換気設備 機器支持金物配置図
A1：S=1/75
A3：S=1/150
環境省新宿御苑管理事務所

ミュージアム側面〔室外機置場〕平面図

N

区画貫通処理

記号凡例

| 平面図記号 | 内　容 |
|---|---|
| ――――― | 露出配管 |
| ――――― | 天井内ケーブル配線 |
| ⊠（WP） | プルボックス（WPは防水仕様） |

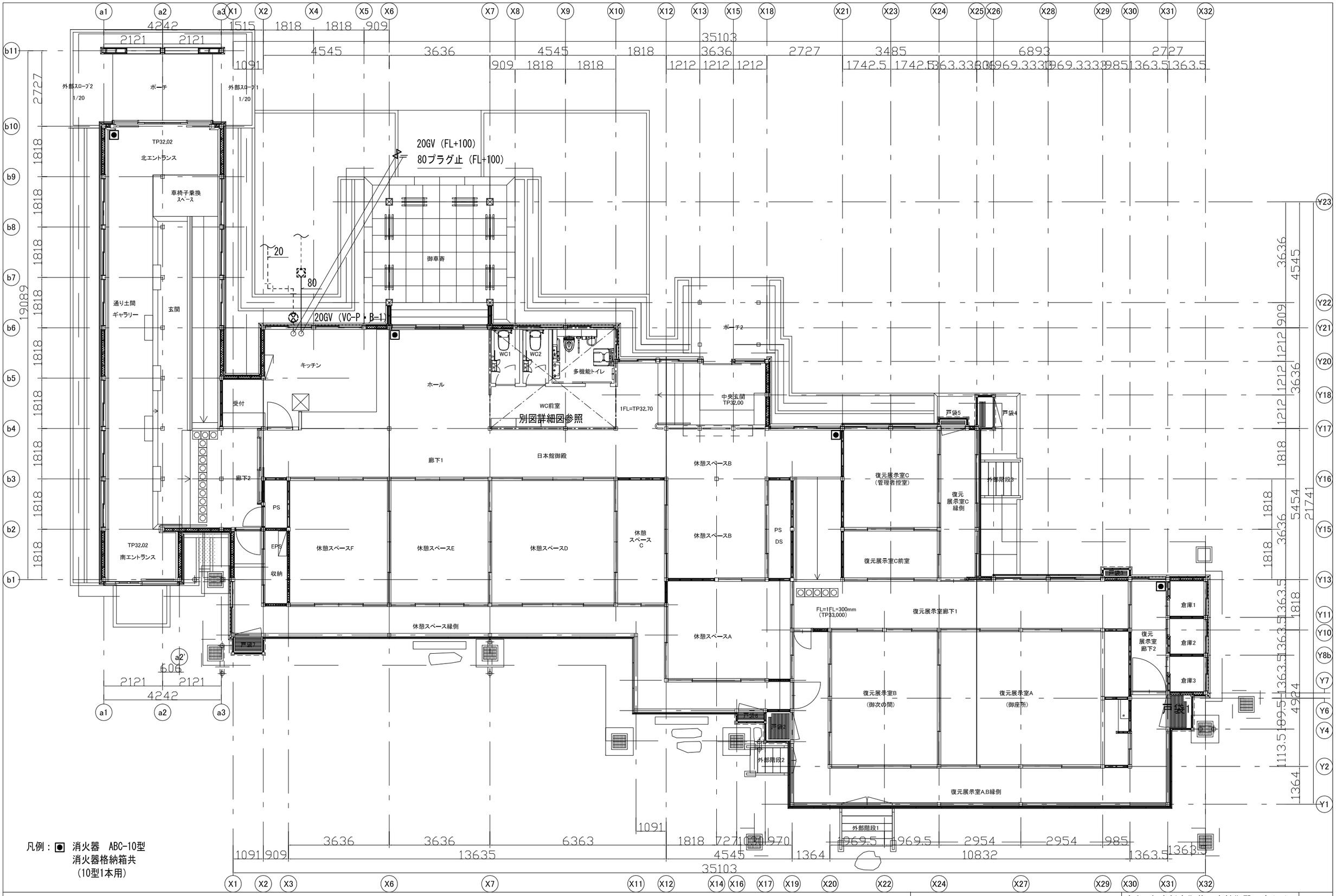
<特記>
・ 天井内はケーブルコロガシとし、室内サーモ・スイッチ類及び壁への立下りは配管を使用する。

<電線管サイズについて>
（コロガシ）／（PF22）
立下り配管サイズを示す。

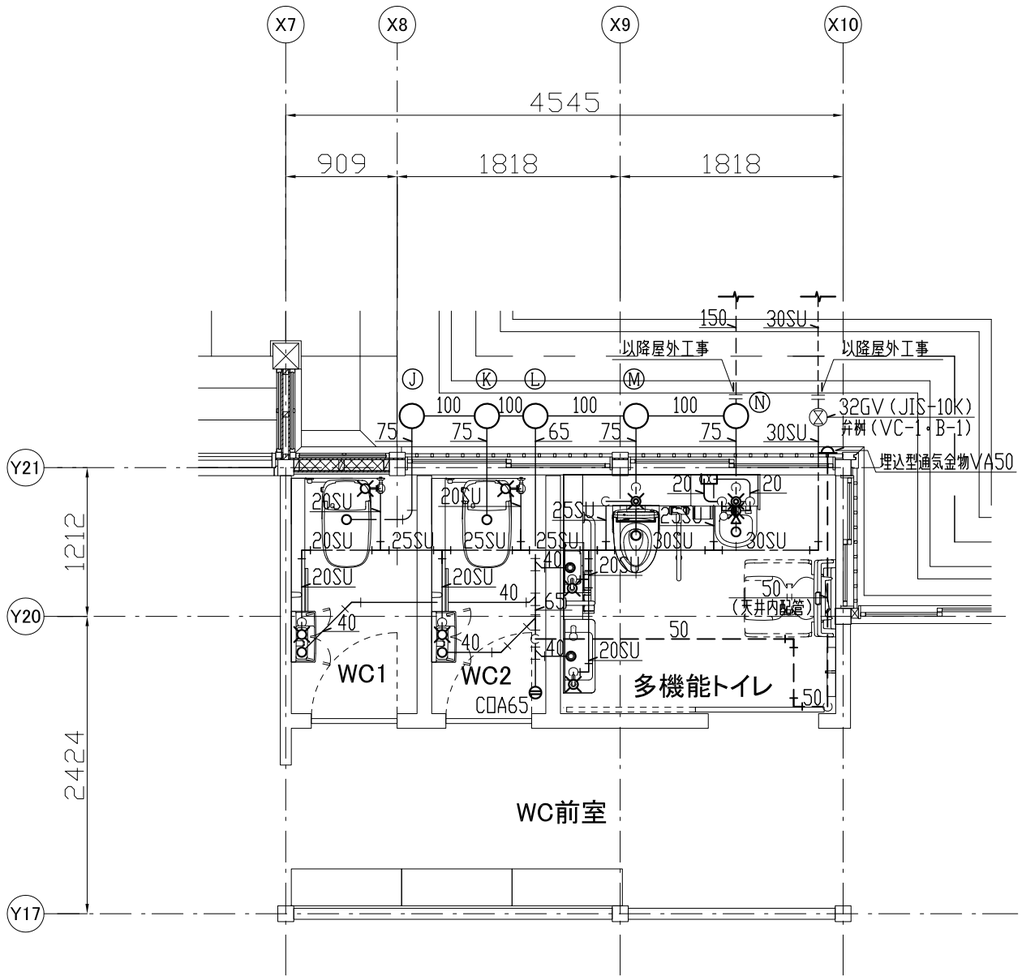
機器凡例

| シンボル | 記　号 | 配　線 | 配　管 屋内 | 配　管 屋外 |
|---|---|---|---|---|
| ○ | RS | | | |
| ○ | RS（天井内） | | | |
| ○ | HS | | | |
| ○ | HS（天井内） | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER | 令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ） | | M-16 |
| 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号） | 空調設備　配線平面図 | A1：S=1/60 A3：S=1/120 | 159 / 164 |
| 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号） | 環境省新宿御苑管理事務所 | | |




| | | |
|---|---|---|
| 香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号) | 令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ)<br>給排水衛生設備平面図　A1：S=1/60　A3：S=1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | M-17<br>160<br>164 |




| | | | |
|---|---|---|---|
| 香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号) | 令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ) | | M-18 |
| | 給排水衛生設備 トイレ詳細図 | A1：S=1/25<br>A3：S=1/50 | 161<br>164 |
| | 環境省新宿御苑管理事務所 | | |

水道用消火栓（新設）
単口地下式消火栓　75φ
補修弁　φ75xH=100
75フランジ付T字管
円形消火栓鉄蓋 600φ
75短管1号
（詳細図による）

NO170
（既設）

既設汚水管 300VU

NO169
（既設）

150VP（既設）

NO168
（既設）

NO166-3
（新設）

NO166-2（既設）

NO166（既設）

水道用消火栓（既設再利用）
単口地下式消火栓　75φ（既設）
補修弁　φ75xH=100（既設）
75フランジ付T字管（新設）
円形消火栓鉄蓋 600φ（新設）
75短管1号（新設）
（詳細図による）

NO165
（既設）

（既設汚水管）

既設給水管に接続
（ダクタイル鋳鉄管用異種管継手）
75x50 サドル分水栓により分岐

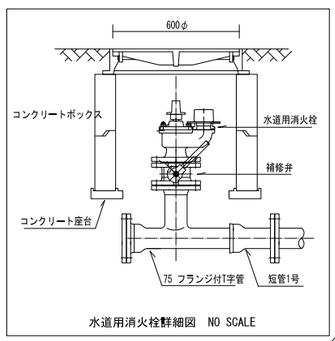
既設給水管
75FCD

既設20GV二接続

既設32GV二接続

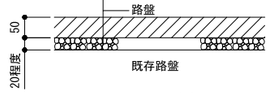
13A散水栓
（ドーム型ボックス共）

以降〔付属棟〕へ



水道用消火栓鮮細図　NO SCALE

新設舗装鮮細図



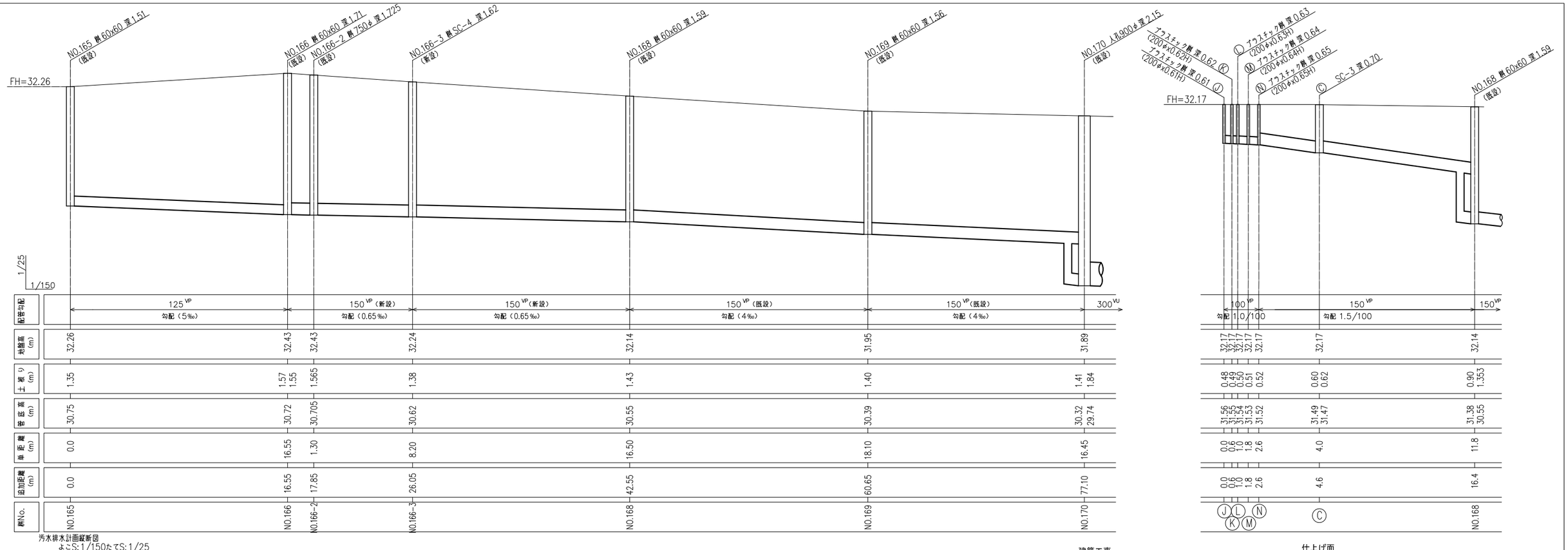
脱色アスファルト舗装鮮細図

注）
太線は新設を示す
細線は既設を示す。
地中埋設標
PE　水道配水用ポリエチレンパイプ（PE）

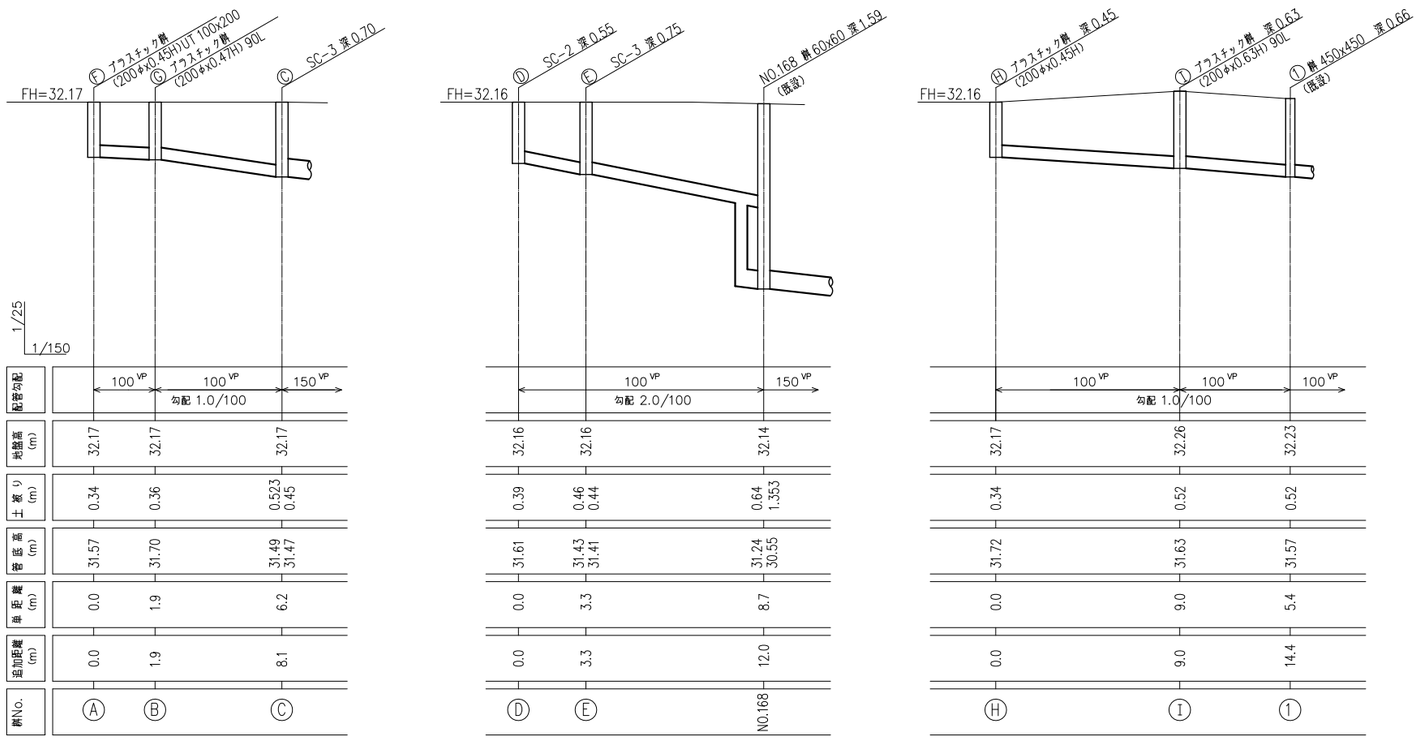
香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）
屋外配管図
A1：S=1/150
A3：S=1/300
環境省新宿御苑管理事務所

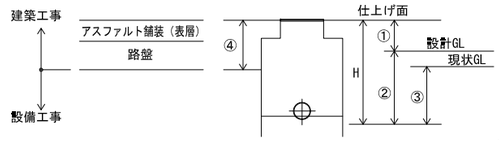
M-19
162
164




汚水排水計画縦断図
よこS:1/150たてS:1/25




汚水排水計画縦断図
よこS:1/150たてS:1/25




桝リスト

設計GL：TP+32.20、現状GL：TP+32.10

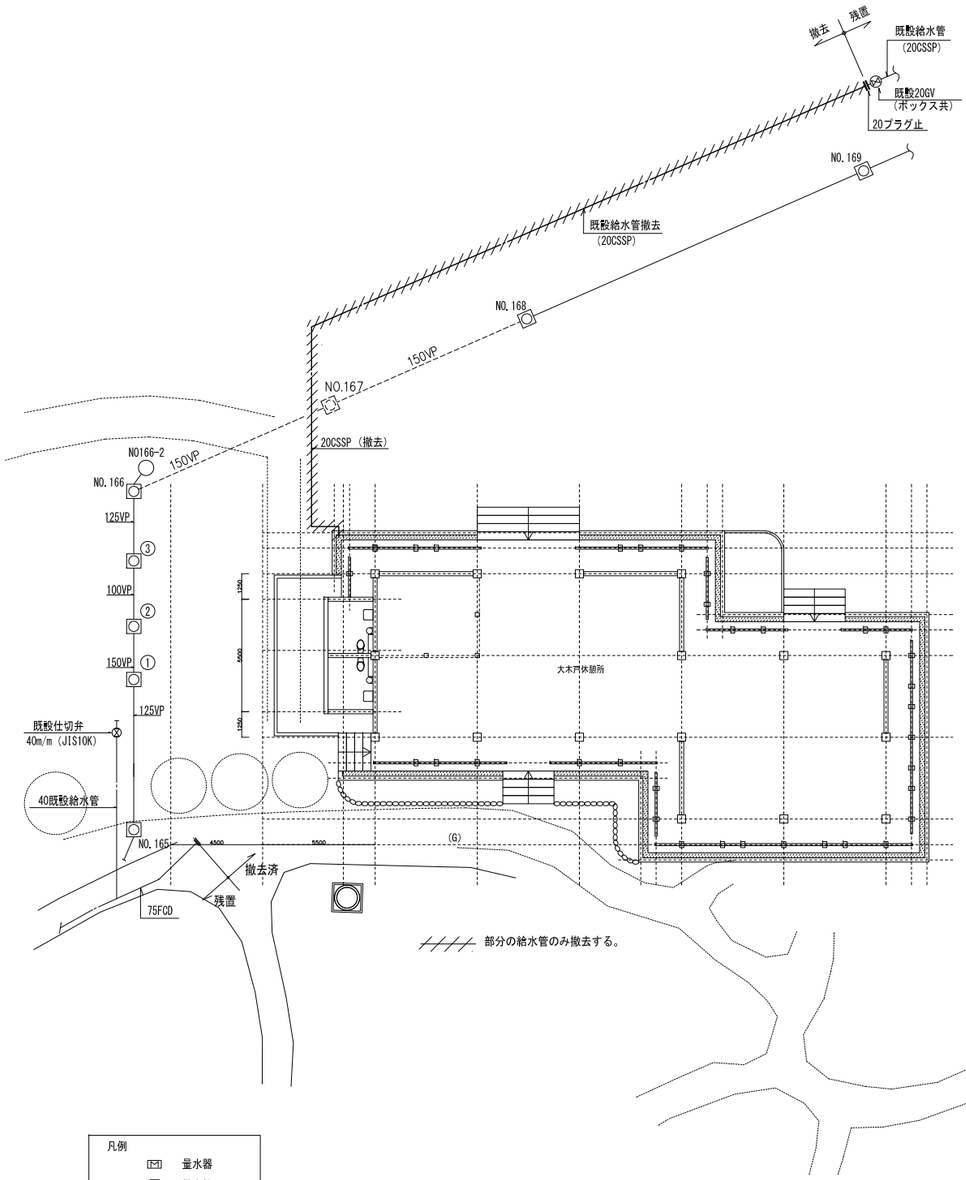
| 記号 | 桝名称 | 桝型式 | 桝深さ | 仕上面の設計GLからの高さ ① | 設計GLからの深さ ② | 現状GLからの深さ ③ | 表層と路盤の厚さ ④ | 改修後桝蓋仕様 | 備考（仕上面） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 165 | 既設汚水桝 | C型桝 600x600 | 1,510 | 60 | 1,450 | 1,350 | − | コンクリート製（既設再利用） | TP= 32.26 |
| 166 | 既設汚水桝 | C型桝 600x600 | 1,710 | 230 | 1,480 | 1,380 | − | コンクリート製（既設再利用） | TP= 32.43 |
| 166-2 | 既設汚水桝 | 750φ | 1,725 | 230 | 1,495 | 1,395 | | 鋳鉄製（コンクリート蓋撤去） | TP= 32.43 |
| 166-3 | 新設汚水桝 | SC-4 | 1,620 | 40 | 1,500 | 1,400 | 70 | 化粧蓋（MHA） | TP= 32.24 |
| 168 | 既設汚水桝 | C型桝 600x600 | 1,590 | −60 | 1,650 | 1,550 | 70 | 化粧蓋（コンクリート蓋撤去） | TP= 32.14 |
| 169 | 既設汚水桝 | C型桝 600x600 | 1,560 | −250 | 1,810 | 1,710 | 70 | 化粧蓋（コンクリート蓋撤去） | TP= 31.95 |
| 170 | 既設汚水桝 | SC-4 | 2,150 | −310 | 2,460 | 2,360 | 70 | 化粧蓋（鋳鉄製撤去） | TP= 31.89 |
| ① | 既設汚水桝 | C型桝 450x450 | 660 | 0 | 660 | 560 | − | 鋳鉄製（既設再利用） | TP= 32.20 |
| ② | 既設汚水桝 | C型桝 450x450 | 660 | 20 | 640 | 540 | − | 鋳鉄製（既設再利用） | TP= 32.22 |
| ③ | 既設汚水桝 | C型桝 450x450 | 720 | 20 | 700 | 600 | − | 鋳鉄製（既設再利用） | TP= 32.22 |
| | | | | | | | | | |
| Ⓒ | 新設汚水桝 | SC-3 | 700 | 0 | 700 | 600 | 70 | 化粧蓋（MHA） | TP= 32.20 |
| Ⓓ | 新設汚水桝 | SC-2 | 550 | 20 | 530 | 430 | 70 | 化粧蓋（MHA） | TP= 32.22 |
| Ⓔ | 新設汚水桝 | SC-3 | 750 | 20 | 730 | 630 | 70 | 化粧蓋（MHA） | TP= 32.22 |
| Ⓕ | プラスチック桝 | UT 100x200 | 450 | 0 | 450 | 350 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓖ | プラスチック桝 | 90L 100x200 | 470 | 0 | 470 | 370 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓗ | プラスチック桝 | UT 100x200 | 450 | 0 | 450 | 350 | 70 | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓘ | プラスチック桝 | 90L 100x200 | 540 | 60 | 480 | 380 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.26 |
| Ⓙ | プラスチック桝 | 90L 100x200 | 610 | 0 | 580 | 480 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓚ | プラスチック桝 | 90Y 100x200 | 620 | 0 | 590 | 490 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓛ | プラスチック桝 | 90Y 100x200 | 630 | 0 | 600 | 500 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓜ | プラスチック桝 | 90Y 100x200 | 640 | 0 | 610 | 510 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |
| Ⓝ | プラスチック桝 | 90Y 100x200 | 650 | 0 | 620 | 520 | − | 鋳鉄製蓋（T8A） | TP= 32.20 |

注）1）既設汚水桝（168,169,170）の蓋を本工事で化粧蓋に改修、仕上（脱色アスファルト）は建築工事とする。
2）新設汚水桝（166-3,Ⓒ Ⓓ Ⓔ）の蓋は化粧蓋とし、仕上（脱色アスファルト）は建築工事とする。
3）既設汚水桝（①②）はインバートを改修する。
4）既設汚水桝（168）はドロップ桝に改修する。
5）既設汚水桝（166-2）は排水ポンプ槽をインバート桝に改修する。蓋は丸型コンクリート製（2分割型）を鋳鉄製（MHA）に改修、下部ポンプ槽部分を、コンクリートで埋戻し、既設汚水管の管底高さに合わせてインバートを設ける。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367070号)

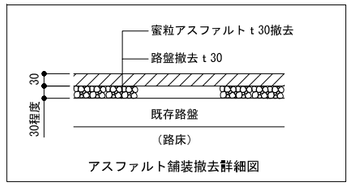
令和8年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅱ）
屋外配管縦断図
A1：S=1/25, 1/150
A3：S=1/50, 1/300
環境省新宿御苑管理事務所

M-20
163
164




凡例

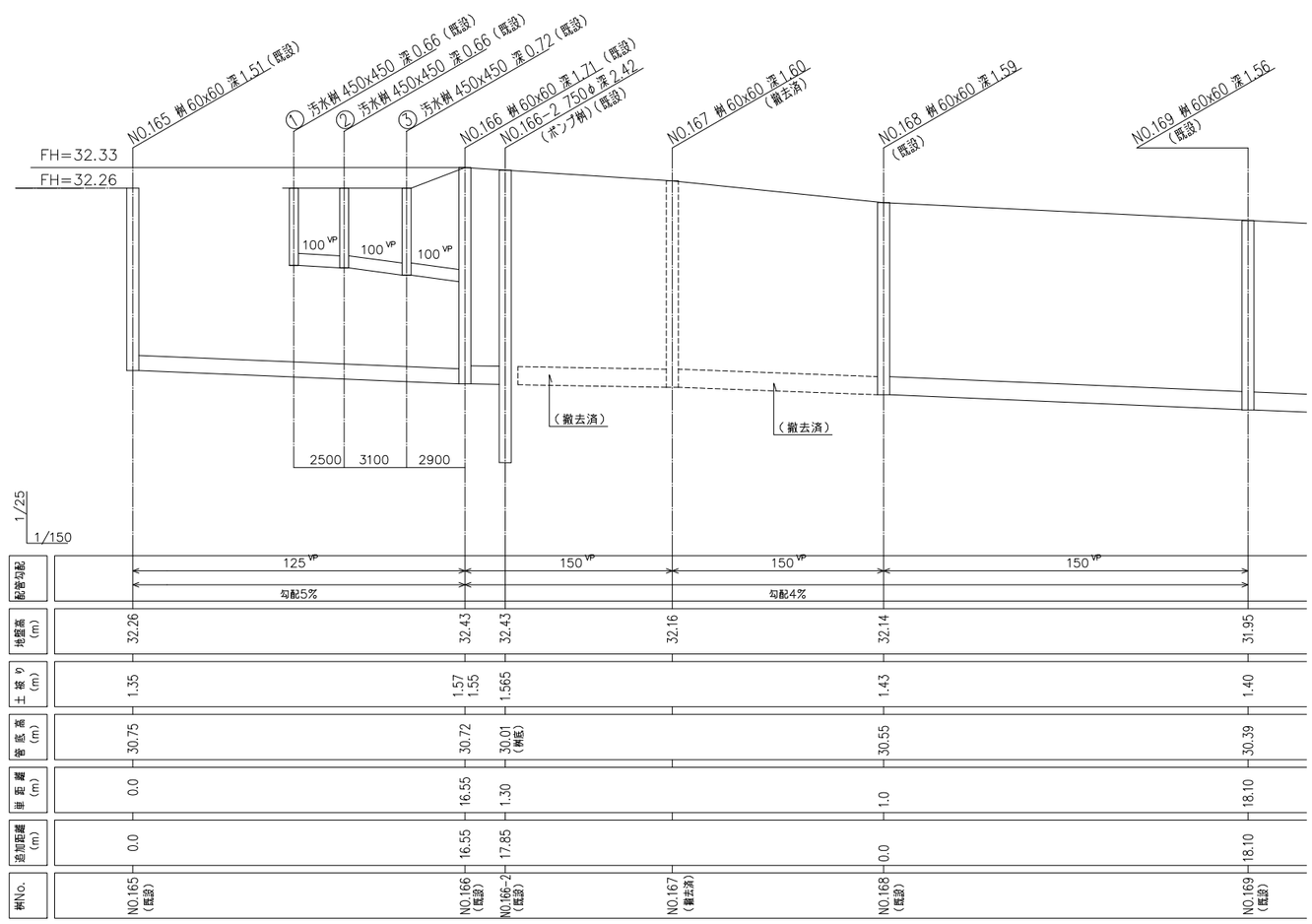
- 量水器
- 散水栓
- Ⓗ 地下消火栓
- 汚水桝
- 既設給水管




アスファルト舗装撤去詳細図

既存配管

| 種類 | 管種 |
|---|---|
| 給水管 | ダクタイル鋳鉄管（FCD[NS]）<br>（内面エポキシ粉体塗装管） |
| | 波状ステンレス鋼管（CSSP）（$20^{SU}$～$40^{SU}$） |
| | 硬質塩化ビニル管（VW） |
| 排水管 | 硬質塩化ビニル管（VP） |
| 地下式消火栓接続管 | ダクタイル鋳鉄管（FCD[NS]）<br>（内面エポキシ粉体塗装管） |




汚水排水計画縦断図

よこS:1/150　たてS:1/25

既設汚水管縦断図

- 撤去済以外の汚水桝、汚水管は残置とする。

撤去済桝リスト

| 記号 | 桝名称 | 桝型式 | 桝深さ | 現状GLからの深さ | 表層と路盤の厚さ | 桝蓋仕様 | 備考（現状仕上面） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 167 | 撤去済汚水桝 | C型桝　600x600 | 1,600 | 1,600 | 60 | コンクリート蓋 | TP=　32.16 |
| NO166-2 | ポンプ桝<br>（残置既設桝） | 750φ<br>排水ポンプ、排水管は別途工事 | 2,420 | － | － | コンクリート製丸型2分割 | TP=　32.16 |

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和8年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅱ)

既設配管撤去図　A1：S=1/150　A3：S=1/300

環境省新宿御苑管理事務所

M-21
164
164